

行方不明を防ぎ
認知症になっても
安心して暮らせるまちづくり

全国フォーラム

認知症の人の行方不明を防ぎ安心して外出できるまちづくり推進事業
(全国生協連助成事業)

平成27年12月18日(金)

主催：社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター

フォーラムへようこそ

このフォーラムは、全国各地で一步一步取組みを進めている認知症の本人・家族、そして様々な立場の関係者による実践報告やパネル展示をもとに、参加者みなさんで情報交換し、「わがまち」ならではの取組みを進めていく具体策を得ていただくことを目的に開催します。

「起きてから」ではなく、今、ここから。

社会全体で、

安心して外出できるまちを

「一緒に」に創ろう！



行方不明を防ぎ認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム

プログラム

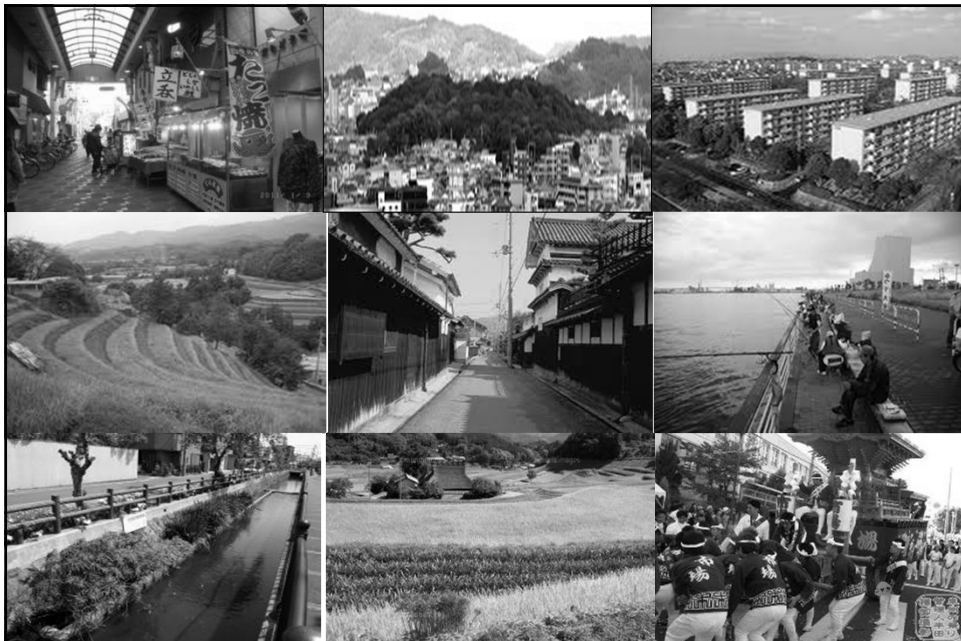
時間	内容	頁
10:00	開 会	
10:05～10:30	「行方不明を防ぐまち」を社会全体で目指そう！全国各地の挑戦の紹介 認知症介護研究・研修東京センター	1
10:30～11:00	【報告1：静岡県富士宮市】 「外にでて楽しく暮らしたい」：認知症の本人とともに安心なまちを創る 佐野 光孝さん／本人 佐野 明美さん／光孝さんの妻 石川 恵子さん／本人 石川 良子さん／恵子さんの母 外岡 準司さん／黒田キャラバンメイト、ケアマネジャー 望月 昌宏さん／富士宮市保健福祉部福祉総合相談課地域支援係	13
11:00～11:30	【報告2：京都府京都市】 交通機関や地域の人たちとアクション＜声かけ訓練で広がる輪＞ 松本 恵生さん／京都市岩倉地域包括支援センター 福井 孝祐さん／岩倉北民生児童委員・学区社協役員	42
11:30～12:45	昼休み ＜ポスター閲覧、情報交換・ネットワーキング＞	
12:45～13:15	【報告3：東京都西東京市】 グループホームをわが町の安心拠点に：ふだんからつながり、備える 港 たけさん、片山 良子さん、鈴木 準之助さん、 神尾 エツさん、山中 暢之助／本人 大木 智恵子さん、表 信満さん／グループホームいずみ 山田 晋平さん／西東京市健康福祉部高齢者支援課介護指導給付係 (映像制作) 一木 菜那さん／武蔵大学社会学部メディア社会学科2年 横山 桃子さん／武蔵大学社会学部メディア社会学科2年	60

時 間	内 容	頁
13:15～13:55	<p>【報告4：大阪府岸和田市】 「一人」を支える個別支援ネットを積み上げる： リスクを抱える本人・家族の声に耳を澄ませながら 庄司 彰義さん／岸和田市保健福祉部福祉政策課 三林 達哉さん／岸和田市地域包括支援センター社協久米田</p> <p>【情報提供：大阪府福祉部高齢介護室介護支援課】 行政と警察が力をあわせて、市町村の最前線を支えるしくみをつくる 行方不明・身元不明高齢者に関する大阪府・大阪府警察の取組み</p>	71 83
13:55～14:10	休 憩 <ポスター閲覧、情報交換・ネットワーキング>	
14:10～14:40	<p>【報告5：新潟県湯沢町】 畑を舞台に、地域に根差したつながりと認知症SOS探索訓練が広がる ～立場を越えたアクションミーティングを積み重ねながら～ 丸山 静二さん／アクション農園倶楽部 団長 國松 明美さん／湯沢町健康推進課 保健師</p>	94
14:40～15:10	<p>【報告6：福岡県大牟田市】 子供から年長者まで、安心なわが町を自分たちが創りつづける 大谷 るみ子さん／グループホームふぁみりえ 大牟田市認知症ライフサポート研究会 吉澤 恵美さん／大牟田市保健福祉部 長寿社会推進課 田島 浩俊さん／福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課</p>	114
15:10～15:30	<p>【まとめ】 まちに出かけたい！わが家に帰りたい！ 安心なまちを一緒につくろう！ 今、認知症と共に生きる人から、すべての人へ 佐藤 雅彦さん／認知症ワーキンググループ 認知症介護研究・研修東京センター</p>	
15:30～16:00	<ロビーにて：ポスター閲覧、情報交換・ネットワーキング> ～お時間のある方は、ぜひどうぞ！～	

「行方不明を防ぎ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日(認知症介護研究・研修東京センター)

「行方不明を防ぐまち」を社会全体で目指そう！ 全国各地の挑戦

認知症介護研究・研修東京センター
永田 久美子



この町で暮らしてきた これからもいっしょに
自分の市町村で、自分の市町村ならではのつながりとまちづくりを

元気な人が、何気なく安全に暮らしている町



この町の中で、認知症で行方不明になっている人が今日も・・・

認知症高齢者の行方不明届けの受理人数* (警察庁調べ)

	2012年	2013年	2014年
受理人数*	9,607人	10,322人	10,783人 (100.0%)
死亡発見	359人	388人	429人 (4.0%)
所在不明	208人	158人	168人 (1.8%)

* 受理人数:警察に届け出て、受理された人数

○本人の声

久しぶりに、いい天気。
うちの中にもすることがないし。
あそこのイチョウがきれいだろうから、
見にいこうかと・・・。

○家族の声

まさか、うちの父さんが行方不明になるなんて。
見つかるまで、生きた心地がしなかった・・・。
たくさんの方が本当に親身になって動いてくれて
ありがたかった。
ひとりでは、とても探しきれなかった(妻)。

○家族の声 その2：行方不明のまま未発見のまま

この2年間、夜、眠る時も玄関の鍵を閉めたことがないんです。

もしかして、ようやく戻ってきた父さんが、家に入れなかったらかわいそう……。

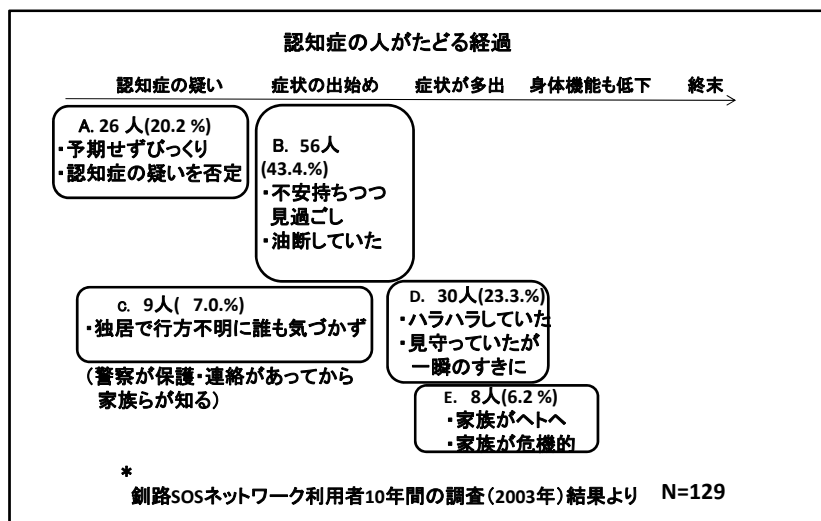
夜中に玄関先で、コトリとでも音が聞こえると飛び起きて外にでてみるんですが……。

父さん、今、どこにいるんだろう。

(2年前から夫が行方不明のまま)

行方不明:まだまだ元気な段階での発生が多数を占めている

警察に保護された時の認知症(疑い含む)の人と家族の状況



認知症の人の行方不明は古くて新しい課題

- 1980年代 全国各地で行方不明を体験した介護家族から問題提起
- 1990年 釧路市で一人の人が行方不明となり凍死した姿で発見。
⇒地元の家族、支援者が中心となり行政とともにSOS
ネットワークの立ち上げ準備の試行錯誤。
- 1994年 釧路市で全国初のネットワークが誕生
⇒ネットワークを求める声が「呆け老人をかかえる家族の会
(現:認知症の人と家族の会)」を中心に全国に広がる。
- 1995年 警察庁生活安全局が通達
「はいかいSOSネットワーク」の構築について
⇒全国でネットワーク構築が進む
- 1998年頃 全国の自治体の7割以上に設置

稼働への
期待高まる

- 2000年代 ネットワークの維持・展開の環境に大きな変化
・公的介護保険スタート ・市町村合併
・所在探知の機器を活用した行方不明対策
⇒ネットワークが形骸化した地域が増える
- 2005年前後 ネットワークがあっても機能しないで、死亡例が相次ぐ。
- 2005年 ネットワークの再構築・実効力向上のために
福岡県大牟田市で模擬訓練スタート⇒各地に広がる
- 2010年下期 「地域支え合い体制づくり事業」:国として認知症の人の
見守り・SOSネットワークを事業化・予算化
- 2013年5月 警察庁が行方不明者年間統計で「認知症」該当数公表
(平成24年の数値から)
- 2014年 認知症の行方不明・身元不明問題がマスコミを通じて
大きな社会的課題に
- 2014年6月 警察庁 全国の警察署に「認知症に係る行方不明者
発見活動の推進について」を通達
- 2014年6月 厚生労働省「全国自治体に行方不明になった認知症の
人等に関する調査」実施。(9月)⇒概要発表。自治体に
「今後の認知症高齢者等行の方不明・身元不明に対す
る自治体の取組の在り方について」通知

2014年6月 厚生労働省「全国自治体に行方不明になった
認知症の人等に関する調査」結果より

2014年(平成26年)4月1日現在

	(N=1,741)
・徘徊・見守りSOSネットワーク事業	616 市区町村
・GPS等徘徊探知システムに関する事業	385 市区町村

(いずれかを実施 約6割)

今、「行方不明を防ぎ、安心なまちづくり」が重要な理由

①深刻、切実な「すぐそこにある危機/悲劇」を繰り返さないために

- ・増え続ける認知症の人
- ・「歩けるくらい元気な人」の命/生活が、一気に暗転する。
- ・見つかったとしても本人・家族らのダメージが想像以上に大。

②老いることや認知症をめぐる社会不安や偏見を解消するために

- ・「過剰に危険視」、「家族に不条理な責任」
⇒地域で暮らしたい・暮らせる本人が、入所/入院
過剰責任で疲弊する家族、介護・医療職員
- ・老いや認知症から目をそらす人たち、問題視、他人事で済ませる
人が増加中⇒これからのわが地域、そしてわが生活を守れない

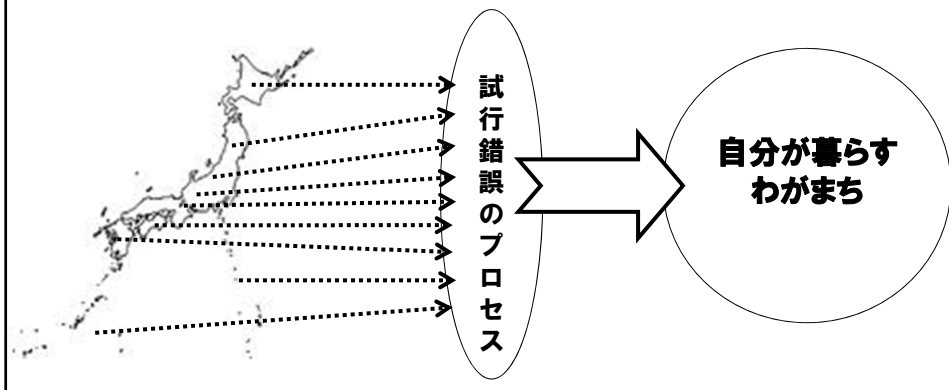
③行方不明は、認知症、高齢者生活弱者の社会問題全体の縮図

- ・防げること、やれることが多いが、積み残し・先送り

☆認知症の人の「行方不明を防ぎ、安心なまちづくり」に注力することは
すべての人が暮らしやすいまちをつくる重要なジャンプボードになる！

従来の「行方不明対策」の発想ややり方を脱皮して
お互いが暮らしやすいまちを、いっしょに創ろう

ゼロからではなく
すでに試行錯誤を積み上げてきている全国各地の
挑戦を参考に、わがまちならではのとrikみを



これまで取り組んできた地域に共通した意見

- ◆形だけSOSネットワークだけをつくっても、役立たない。
普段からの顔の見えるつながりがないと、いざという
時の連携協働がスムーズにいかない。
- ◆行方不明になってからでは、本人・家族はもちろん、
関係者の負荷・負担があまりにも大きい。
普段からの見守りで、「行方不明を防ぐ」「再発を防ぐ」
ことが大切。
- ◆SOSネットワークを単独(別建て)で作るのは非効率。
関係者の負荷が多い。地域包括ケア、まちづくりの中に
しっかりと位置付けて、すでにある地域の資源・ネット
ワークを活かして構築・発展させていくことが不可欠。

今、全国各地で広がる挑戦

1. 当事者を抜きに、取組みを進めない
 - ・当事者とともに創りあげていく
 - ・当事者の声、視点をもとに、見直し、作り変える
価値観、とりくみ/しくみ、用語 等
2. 「行方不明にならずに済む(発生を防ぐ)」ことに注力する
 - ・出かけて安心な普段のつながりが、いざという時の力
 - ・今、切実に困っている「一人」を大事
3. 実態をとらえ、当事者に役立つ具体策を編み出し続ける
4. 立場を越えて脱領域でつながり、希望のあるアクションを！
5. 現場を大事に重層的・持続発展的なしくみを一緒に築く
焦らずに、大事なことを踏み固めながら⇒ゆうゆうと、急げ！

1. 当事者を抜きに、取組みを進めない



当事者とともに創りあげていく

変える勇気
決断・行動

★当事者の声、視点をもとに、見直し、作り変える

*価値観

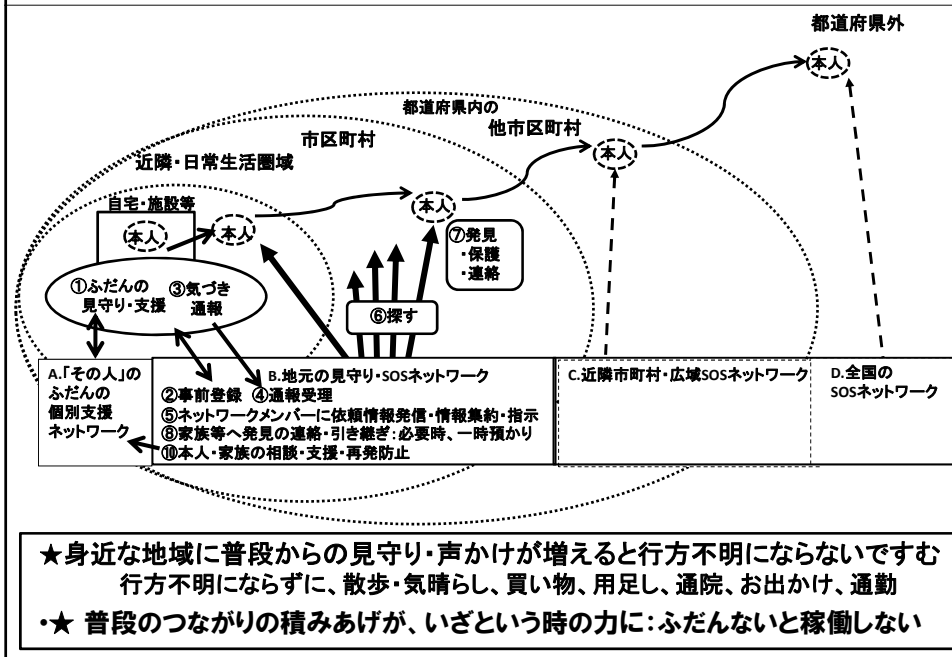
旧:何もわからず問題の人、監視や管理、特殊な対策が必要
⇒新:可能性を秘めた人、人として素朴な願い・暮らしを守る関わり・環境を
*自分だったら・・・

*とりくみ/しくみ

旧:取組む人の見方/やり方、バラバラ・複雑、その場(その年)限り
⇒新:当事者の見方/生活重視(使えて役立つものに)、シンプルに、継続

*用語 当事者を傷つけ力を削ぐ/誤解・偏見助長/取組みが広がらず成果出ない
徘徊、監視、捜索、人相、手配 etc.

2. 「行方不明にならずに済む(発生を防ぐ)」ことに注力する



切実に困っている「一人」を大事に

たち

- ・身近な地域に必ずいる！
医師・ケア関係者がやり過ぎているケースが沢山！
リピーターも多い(行方不明者の3割前後)

- ・「そのうち」では、後手後手になる
* 救える命/生活がある



- ・「一人」の中に、他の人・地域の課題・可能性がある
⇒「一人」を丁寧に
⇒小さな成功体験が活きたつながりしぐみの基礎

相談、ケア(プラン)、事例検討会、地域ケア会議、
認知症カフェ、初期集中支援チーム、多職種研修
⇒今ある取組み全てにおいて、「一人」を大事に

3. 実態をとらえ、当事者に役立つ具体策を編み出し続ける

行政、警察、地域の関係者が協力して

- ・統計をつくる。
- ・ハイリスク者を把握する。
- ・行方不明の機序、
当事者の生活や思い、
発生を防ぐ/再発防ぐための
方策を徹底検討する。

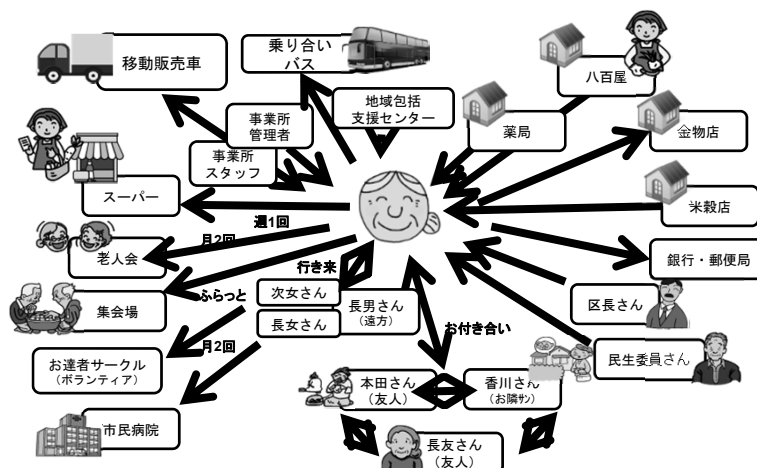


＊効率的、継続的な取組みの「いろはのい」
これがない自治体が、あまりにも多い。
＊事業、取組みを重ねても空回り・・・

本人の持っている力をカタチに・・・「軒下マップ」

【かかわる、つなぐ、本人の持っている力を活かす】

石川県加賀市



4. 立場を越えて脱領域でつながり、希望のあるアクションを！

領域を越えて

既成の発想を超えて、地域のいろんな人たちと共に。
 わが町の特徴を活かそう。すごい人が眠っている。
 思いがけない人が、思いがけない発想とパワーを出す。
認知症地域支援のイメージが変わる！地域の元気がでる！

わがまちにいる人たちと

商店、温泉宿、飲食店、・農家、漁師
 犬の散歩仲間、趣味・スポーツ仲間
 警察、消防、運輸、金融、夜警
 ⇒町をふだん支えている人がいる
仲間の仲間が仲間を誘いあって…



子供たち・先生たち・PTA・ご近所と



退職前後の人たちと

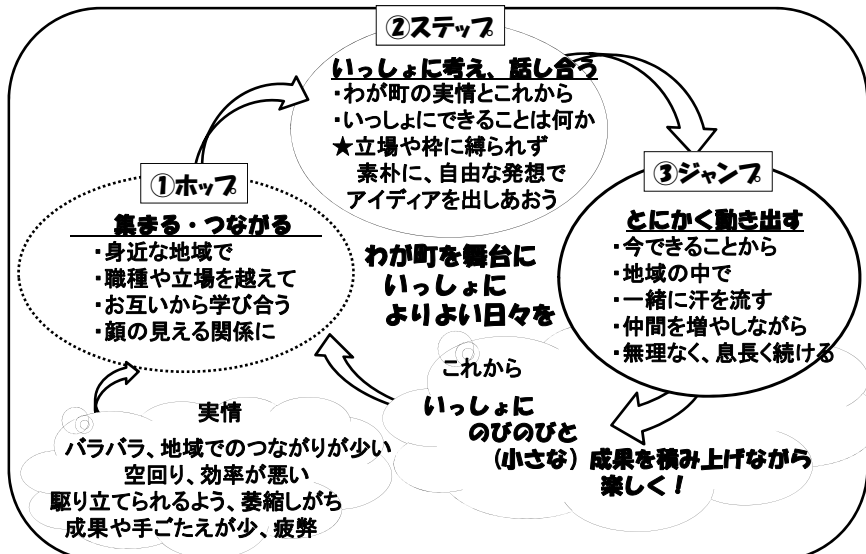


多様な企業
 の人たちも

白熱議論中！
 親父パーティー

アクションミーティング

地元の多様な人たちが集まり、話し合い、とにかく動く！
 動きながら、つながり、支えあいを強め、広げ、改善していく。

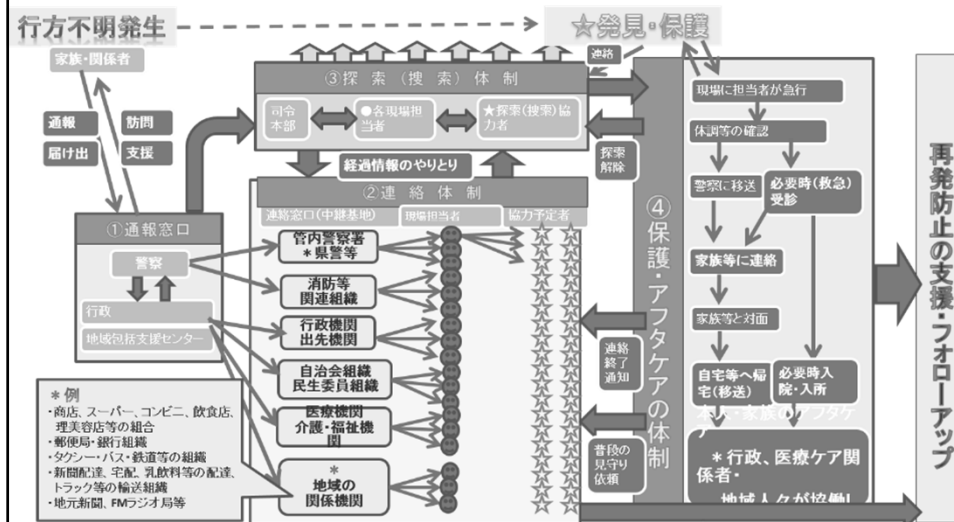


孤独な奮闘、深刻・大変モードを、いっしょに、楽しく、希望のあるモードに

5. 現場を大事に重層的・持続発展的なしくみを一緒に築く

まちにある資源（人、組織、サービス、場等）をとことんつなぐ

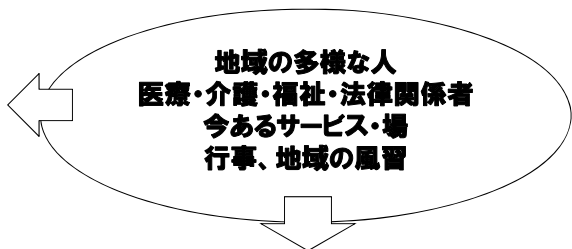
図 認知症（疑いを含む）の行方不明者のSOSネットワークの基本的なしくみ



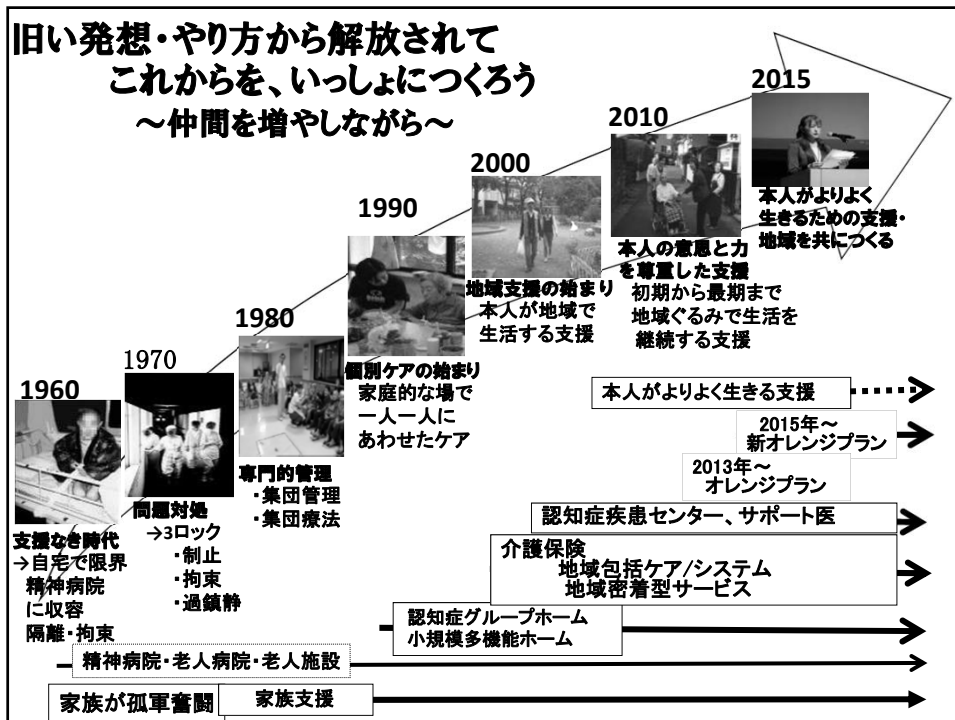
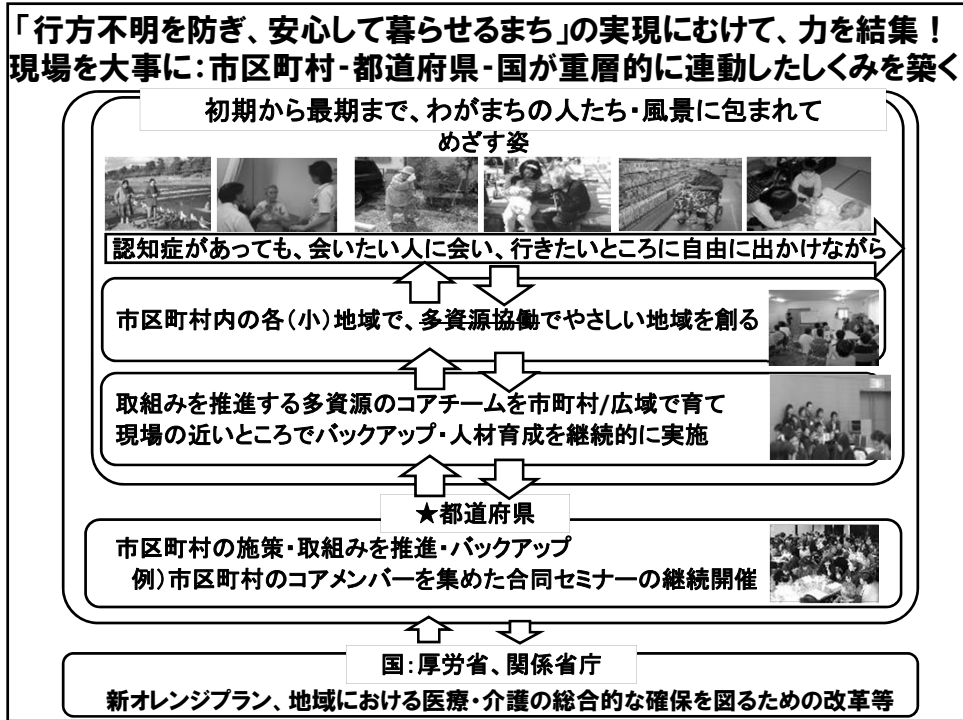
行方不明の防止～早期発見～再発防止まで 本人に沿ったしくみをつくる

日常のくらし → 行方不明発生 → 行方不明に気づき → 通報 → 探索 → 発見保護 → 日常のくらし

1. 行方不明のリスクのある人の把握⇒会う、地域の人・場をつなぐ
6. 事前登録制をつくる、周知
5. SOSネットワーク協力機関の充実
8. 見守りネットワークづくりのための協定等の取り組み
10. 警察との顔の見える関係づくり
7. 本人自身に役立つ・本人が自分を守るために使いたいモノづくり
3. 独居高齢者の徘徊(?)防止策の取り組み



9. 模擬訓練等の地域での取り組み
2. 発見後のアフターケア 地域ケア会議の活用
4. 認知症サポーター要講座の展開及びサポーターの活躍の場
12. 13. 近隣市町村との連携
16. 広域的な協力機関との連携
14. 15. 隣接他府県との連携 京都府・兵庫県、和歌山県・奈良県



静岡県 富士宮市

「行方不明を防止 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日（認知症介護研究・研修東京センター）

静岡県 富士宮市

「外にでて楽しく暮らしたい」
認知症の人とともに安心なまちを創る

佐野 光孝さん／本人
佐野 明美さん／光孝さんの妻
石川 恵子さん／本人
石川 良子さん／恵子さんの母
外岡 準司さん／黒田キャラバンメイト、ケアマネジャー
望月 昌宏さん／富士宮市保健福祉部福祉総合相談課地域支援係

富士宮市の現状

人口 (H27. 4. 1現在)			
全人口	134,806人		
高齢者数(65歳以上)	34,641人		
高齢化率	25.7%		
認知症の症状を有する方 (H27. 4. 1現在)			
日常生活自立度Ⅰ以上	4,804人	← (何らかの認知症の症状を有する人の数)	
日常生活自立度Ⅱ以上	3,702人		
日常生活自立度Ⅲ以上	1,850人		
※要介護認定申請を行っていない人は含まない。			
高齢者世帯数 (H27静岡県高齢者福祉行政の基礎調査(県報告数値))			
富士宮市全世帯数	53,842世帯		
65歳以上で1人暮らし世帯	6,099世帯	→	全世帯の11%
2人とも65歳以上の夫婦のみ世帯	5,215世帯	→	全世帯の9.7%
その他の高齢者のみ世帯	371世帯		
※調査対象者は65歳以上で在宅高齢者、施設入所者は含まない。			

認知症を抱える人と共につくるまち (本人の言葉で思いを伝える)



キャラバンメイトに認定
佐野光孝さん。石川恵子さん。



当事者の講演



認知症サポーター養成講座



認知症を抱える方との関わりからまちづくりを考える

石川恵子さんプロフィール

- ・現在52歳
- ・48歳でアルツハイマー型認知症を発症
- ・それまでは、会社で唯一の女性管理職だった。
- ・現在は、マンションで1人暮らしながら、介護事業所で働いている。



認知症を抱える人の声を地域に届ける

出勤途中、通ってはいけない民地を通り、住民とトラブルに。
そこを通ると、とても悲しい気持ちになる。
だけど、その理由がわからない。

地域の方にも認知症の理解を

“認知症サポーター養成講座開催”

主催者：介護事業所

- ・認知症本人が自分の思いを語る
- ・行政はこれまでの経緯を語る
- ・事業所は当事者の働く様子を語る



3者の語りを通して認知症の理解が
深まる。



地域住民に変化が・・・。



5

日常生活での困りごと

忘れちゃう！

- ・買い物をする時、
いつも不安？⇒払った？
- ・ガスコンロ ⇒火を消した？
- ・名前が覚えられない。
- ・次にすることがわからない。

メモを取るなど、できる限りの努力はしているけど、
そのメモが・・・

本人の状態

記憶が残らない。確認ができない。⇒日々不安な状態。

日々の不安

- ・母親（80歳）がいないと不安。
- ・働く仲間が変わると心配



これまで道には迷って家に帰れなくなることもあった。

でも、いつも誰かが見ていてくれて無事に帰れる。

理解してくれる人がいることがうれしい。



認知症を抱える人の活動 リーグル活動



旅行



音楽



麻雀



スポーツ

イベントの企画も当事者と共に



ラン伴・Dシリーズ 実行委員会など







認知症担当者の思い

「認知症の方が元気に生き活きと生活する姿が見えるまち」にしたい！！



- ・認知症の人が新たな1歩を踏み出すきっかけに
- ・「共に楽しみ、生きる」ことを共感できるまちに
- ・認知症になっても大丈夫という安心感のあるまちに



参考資料



15

キャラバンメイトと認知症サポーター数


推移(累計)	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	計
認知症サポーター数	35人 [1回]	572人 [10回]	1,687人 [54回]	2,698人 [82回]	1,698人 [50回]	1,316人 [34回]	1,122人 [30回]	771人 [28回]	769人 [30回]	10,668人 [289回開催]
キャラバンメイト数	17人	6人	158人	2人	60人	4人	0人	56人	3人	306人

16

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく笑顔で暮らせるまち富士宮


**このステッカーは、認知症の方や
そのご家族を暖かく見守る応援者の印です。**

“認知症サポーター”の役割は？



認知症サポーターのご自宅、外から見て目に留まる所にステッカーを貼っています。認知症の方やその家族のちょっとしたサポートに協力します。


**安心してお買い物！！
わたしたちが応援します。**



認知症サポーターがいるお店でステッカーを貼っています。買い物を見守り、お困りのことがあればサポートします。

地域でのちょっとした支え合いが広がっています

認知症を理解した優しいドライバーに



認知症サポーター養成講座を修了したドライバーの車内に貼っています。富士市と共同

相談員・ケアマネジャーなどの福祉職が、認知症当事者とそのご家族の方と認知症サポーターをつなぐと共に「支え合い」をサポートします。

お問合せ・ステッカー配布先
* 認知症サポーター養成講座も開いています
富士宮市役所 福祉総合相談課
TEL 0544-22-1591

困っている人に、実際につながる見守り支援を目指して

富士宮市内には、実際に認知症の方をご近所同士の温かい目で見守っている地域があります。

私は、認知症を抱える母(83歳)と2人で暮らしています。

悩み こんなことに困っています

※私は昼間仕事をしているので認知症を抱える母は1人で家にいます。

※母は、私が家を留守にしている間に、往復1時間かかる公園までの道のりを一日に何度も行ったり来たりしてしまいます。

息子

※自分の名前や自宅の場所を言うことができません。

※確認をしないで、道路を横断してしまいます。

住み慣れた家でずっと一緒に暮らしていきたい

度ないからと言って家に閉じ込めちゃうのはかわいそうー

私1人じゃ、母を管束できないし…どうしたらいいんだろう？

交通事故に遭わない心配がない

自宅に慣れなくなってしまうからどうしよう

途中で体調が悪くならないか心配だな

1人で悩まずに、誰かに相談してみよう！！

安心してお散歩できるようにするために、わたしたちには何ができるだろう？

■家族はまず「認知症」という病気について正しく理解することが重要です。

■ご近所さんに、いつもより少しだけ声にかけていただいたり、声をかけていただくだけで、認知症の方は安心して出歩けるようになります。

介護保険のサービスだけでは、見守り支援が十分ではないのよ

福祉支援センター

地域のみんで見守っています。

介護保険のサービスだけでは、本人や家族の願いを叶えられないことがあります。地域で見守り支援をしてくれることで、本当にありがたく思っています。

自分としては、最初はこのような取り組みをすることは決断が難しかったです。でも、みなさんに声をかけてみて、お話を聞かせていただいたら、「地味ってこんなにかいがあるんだー」と感じました。

「見守りお願いマップ」を作って、ご住所の方に配布しました

チラシを積極的に配って家族みんなで気にかけています。

最近もお互いなく歩いてるご様子よ

「今日はスリッパだけ」と声をかけると「靴しかかかからず履き残ったの」と答えてくれるよ。いつも気にかけてるよ

いつも元気な歩いてるよ、大丈夫そうだよ。

町内会役員

以前からよく声かけていたけれど、チラシをいただいていたから、もっと声をかけようようにしています。

いつもと違う方向に歩いてるよごを聲かけました。大層に喜んでくれていたので安心しました。

「自宅」

「公園」

「ご近所」

「ご自宅」

「公園」

「ご近所」

「ご自宅」

みなさんに気にかけていただいているおかげで、以前よりも安心して母を散歩に送り出せるようになりました。見守りにご協力いただけて感謝しています。認知症は決して恥ずかしい病気ではありません。他の地域のみなさんも、認知症を抱える方を温かい目で見守っていただけたら嬉しいです。

18字

静岡県 富士宮市

見守り支援マップ

地域のみなさまの温かい見守りをお願いします!!



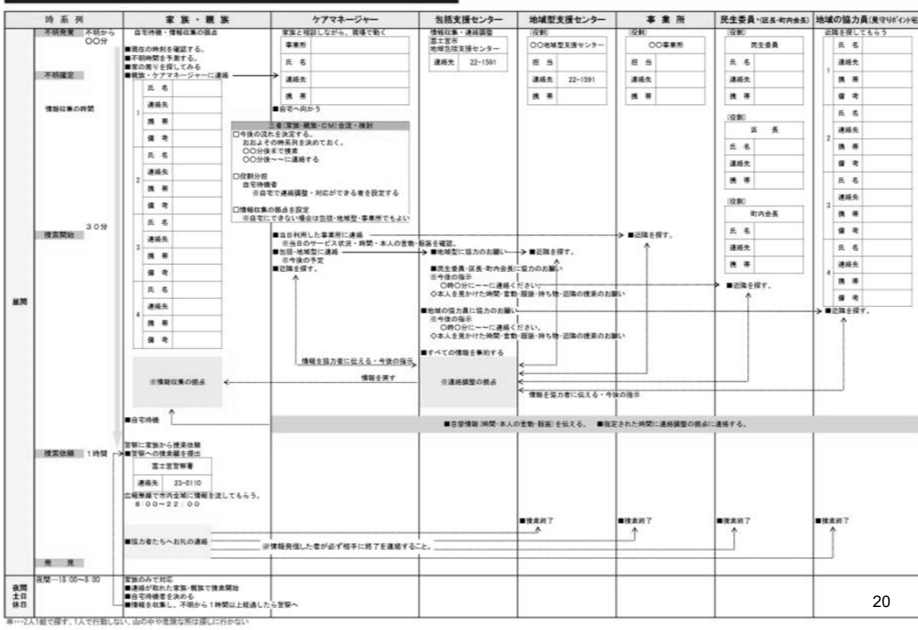
みなさまへお願い

ご質問に「へーこんなへー」認知症の方がいます。認知症は脳の病気です。体調が悪くなったり、性格が変わったり、家までの道が分からなくなってしまう時、自分でどうすることもできなくなることがあります。この方が、この地域で一日でも長く安心して生活できるように、地域のみなさまの温かい目と見守りにご協力をお願いします。

本人の写真	氏名	_____
	住所	_____
本人が歩く場所の地図	本人の特徴	
	年齢	性別
	身長	体格
	髪型	_____
	服装	_____
	特徴	_____
	行動パターン	_____
	併存症	_____
	会話	_____
	備考	_____
【緊急連絡先】		
※本人が持っているような情報は、下記までご連絡ください。		
家族	_____	
氏名	性別	
ケアマネージャー	_____	
氏名	性別	
事業所	連絡先	
富士宮市地域包括支援センター	連絡先：22-1591	
地域型支援センター	連絡先	
サービス事業所	連絡先	

マニュアル

居場所がわからなくなってしまう時の対応・手順等について 家族から協力依頼があったときの動き ※事前に書類作成と捜索に対する家族の同意を得ておく。



行方不明の高齢者対応

- 見当たらないと気づいてからの家族の行動が、心当たりを探すのに時間が費やされて警察への連絡が遅れている。
- 警察から同報無線につながってからは、夜でも比較的早い時間で保護されている。

(流れを確立して市民に周知)

家族・事業所(1時間以内)⇒警察⇒同報無線⇒携帯メール

(周知徹底)

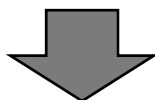
家族・事業所は・1時間以内(明るいうち)に警察へ

支援者は……携帯登録を

(事業所、消防団、民生委員、区長、新聞配達員、ヤクルト配達員、おうちCOOP、タクシー協会、バス運転手、清掃員等)

報告のバトンを渡します！

富士宮市・行政担当者から



富士宮市黒田地区の活動者に



富士宮市黒田区の活動 黒田区を何とかせねば

「この黒田に暮らして居て良かった」

区民みんなが言える様に！！

富士宮市 黒田キャラバンメイト
黒田よりあいサロン
外岡 準司
とのおか じゅんじ

富士宮市黒田からの富士山～愛鷹連峰(越前岳)H27・1・3



H27・10・01現在
黒田区/富士宮市

黒田区/富士宮市

世帯数 → 746世帯/54,108世帯
人口 → 2,122人/134,608人
男・女(1073人・1049人)

2
4

平成20年 10月 頃
キャラバンメイトの資格を、取ったのと同じ時期
近所で、認知症が原因のトラブル発生。
パトカーが、出動。
「こんなに身近で事件が起きている」
黒田区の色んな所で起きているのかも
これは、ほっておけない！

25

「何とか、しないと大変な事に
なってしまう」
自分が住んでる黒田を、
認知症になっても安心して住める街に。

認知症が原因で、
事件が起きない場所に。

それでどうする？

26

最初に黒田区民に
認知症のことを理解してもらおう。
私はキャラバンメイト
認知症サポーター養成講座を開
けるじゃん。

でも、どうやって開いたらいいの？

27

…(区長の所に通う)……

(一年の時間が流れる……)

区長の許可が出る。

講座を開く事になる。

即回覧をまわす。

28

平成21年10月

富士宮市 黒田区対象 主催 黒田自治会・黒田寄り合い会スタッフ

認知症とは？

第一回目講習会開催のお知らせ！
(認知症サポーター養成講座開催)

① いつ誰が発症するか知らない認知症とは？を理解するのが目的です。
家族・身近の方がいつ発症するか解らないし、また外出先等でいつ認知症の方と接するか解らないのが現状です。

ぜひ、この機会に認知症を理解し事前に理解しておきましょう。

② 認知症とは？(どんな病気なのか原因で発症し、どんな症状なのか、どんな症状なのか別にどんな事を考えているのかを理解します。実際の認知症の方との接し方も学びます。

③ 黒田区民館で平日の夜(19:00~20:30)で行います。

④ 富士宮市の後援で黒田区の寄り合い会スタッフ(キャラバンメイト*1)が講習を行います。

⑤ 黒田区の方々を対象に全区域に受講して頂くように原則、黒田毎に行います。

⑥ 月一回社の割合で1回内から(他の期の方)も参加可能です。1期めです。

⑦ 受講された方には認知症サポーターとして「オレンジ・リストリング」を差しあげます。

*1(キャラバンメイト) 認知症サポーター養成講座を開催・講義をする有志者。

開催日 平成21年10月28日(水)
開催時間 午後7時~午後8時30分
開催場所 黒田市民館 二階

第一回目
黒田認知症サポーター養成講座
開催
を、まわす。

地元(黒田)で
キャラバンメイトは私一人だけ
まさに、孤軍奮闘。

平成21年10月28日(水)

講座の回数を重ねると
一緒に活動したいと
仲間が増えてくる。

黒田キャラバンメイト発足
(H22・01発足~)

黒田認知症サポーター養成講座
寸劇の一場面・アドリブが、どんどん出る

31

H24・5・17

演じるのは、もちろん(黒田キャラバンメイト)



黒田の認知症サポーター養成講座で
認知症勉強会を行なう。
若年性認知症当事者も参加してもらう

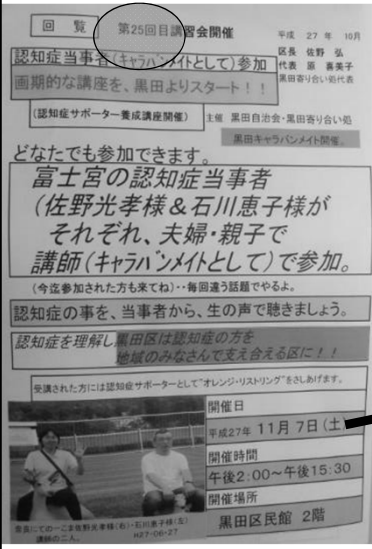
32

H25・9・28



H26・3・8





そして、最新の黒田の認知症サポーター養成講座は**第25回目**を迎えた。認知症の当事者による画期的なサポーター養成講座を、開催した。

H27・11・7(土)開催。

33



黒田寄り合い処
平成26年 8月の寄り合い処にて

34

月一回の寄り合い処は 35

三世代交流の場・イベントの場であり

これは居場所ではない。

しかし(黒田寄り合い処は、三世代交流の場として必要)

居場所としては、最低

週に一回は、集まりたい。

(私的な考えの居場所の条件)

黒田よりあいサロン (居場所)

平成25・5・2(木)スタート

36

37

家にいると息子が暴れて怖いので、毎日歩いて30分かかる大スーパーに逃げ込んでいる、母親と知り合う。

こういう方のために、また認知症当事者も、気楽に集う居場所を近所に作りたかった。

一年の時が流れた……………

平成25年・4月、区長が、私たちの健康を心配して
(神社委員も同じように)

一週間に一度なら(私たちの健康を心配して)

OKが出る。

区長の気が変わらないうちにと

「翌月スタート！！」



区長、開所の挨拶

開所式に集まった参加者の方々
数人でした。

黒田よりあいサロン開所式

平成25・5・2(木)

「地域の人たちの居場所を作りたい！」その思いがやっと現実に。
毎週木曜日午前中に、開催。



黒田よりあいサロン毎週楽しく来週が楽しみ

特別の日
3回/年 食べ物が出る

おいしいさんをおばあさんたち
送迎してくれる。

通常のサロン
お茶だけで楽しい、おしゃべり

笑い声が、あはれです。

40

そして今、黒田よりあいサロンは
オランダの福祉担当副大臣様ご一行が
見に来て下さる様になりました。

41

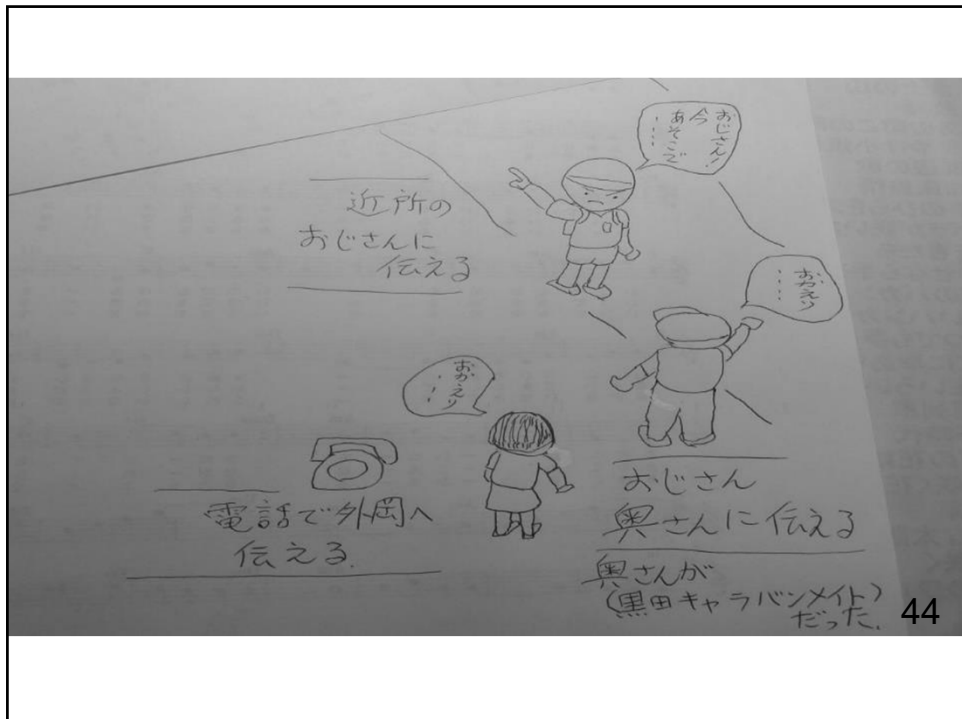
H2710・23(金)
副大臣(中央)と
一緒に
ハイポーズ。



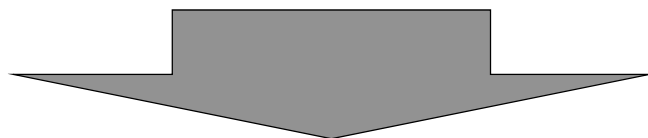
黒田の地域で半年前起きた出来事

H27・5・1日(金) 15時過ぎ
小学校下校時に起きたこと。
認知症の一人暮らしのおじいさんが、
外出して帰ってきた時に
かぎを失くして、
家に入れなくなって行動した事！
ここから、話がはじまります。

42



黒田の地域で起きたこの出来事を
学校に報告5月6日(木)、小学生男児の
連絡がもとで、事なきを得たことを伝える。



後にこの生徒たちは、
全校生徒の前で、表彰されたそうです。

45

その結果小学生に
認知症サポーター養成講座
開催

H27・7・9
黒田小学校6年生140名がサポ一
ーターに、(毎年開催決定)。

地域の見守りの仲間が
また増えました。

46

黒田小学校6年生に、黒田キャラバンメイトによる
認知症サポーター養成講座開催。
黒田のサポーターの仲間になる。

H27・7・9



たくさんの情報

(黒田の認知症のサポーターから。)

(黒田キャラバンメイトから。)



黒田キャラバンメイトに届く。



認知症の方が見つかる。

48

その認知症の方とどう関わるか？
黒田キャラバンメイトのメンバーで話し合う。

黒田寄り合い処

OR 黒田よりあいサロン に誘う

誰が誘うか、この話し合いで
適任者を決める。

49

その結果
認知症の方が、
黒田よりあいサロン
黒田寄り合い処に参加するようになる
そしてまた、地域の方と、交流が
できる様になる。

50

黒田区は今、こんな地域になってきた。

区民が全体で憩う場所があり（黒田よりあいサロン）
（黒田寄合処）

区民の多くの人々が認知症のことを理解し
（認知症サポーター養成講座）

認知症の方も一緒に普通に生活の中で
みんなと知り合い・挨拶を交わし、語らい
周りの方も、認知症の人を温かい目で
見ている。

51

認知症の方が
いつもと違う行動・場所。

声をかけたり
迷っていれば家に
送ってくれたり

52

認知症の方を
ポイント(点)で見守る？

のではなく、
黒田は
地域を隙間なく

面(ゾーン)で見守る体制 53

そんな地域になってきた。

これで満足？

でもまだまだ、道半ば
いや、まだ入り口

満足したら
それでおしま
いだよ

これからだよ！！

54

この頃思うこと。
区民みんなが
「ここに暮らして居て良かった」

言える

地域に！！

55

サポーターの皆様からの新しい情報

反映

よりあいサロン

(黒田寄合処)

黒田キャラバンメイト

講座 当事者との関わり

日々前進

56

これからも、この活動を 57
継続・進化をしていかなければ、なりません。
この黒田からの富士山に恥じないように！



前進あるのみ

黒田キャラバンメイトとして。

富士宮市黒田からの富士山 H27・1・3

富士宮市黒田からの夕陽の中の富士山 H27・6・27

ご清聴
ありがとうございました。

58

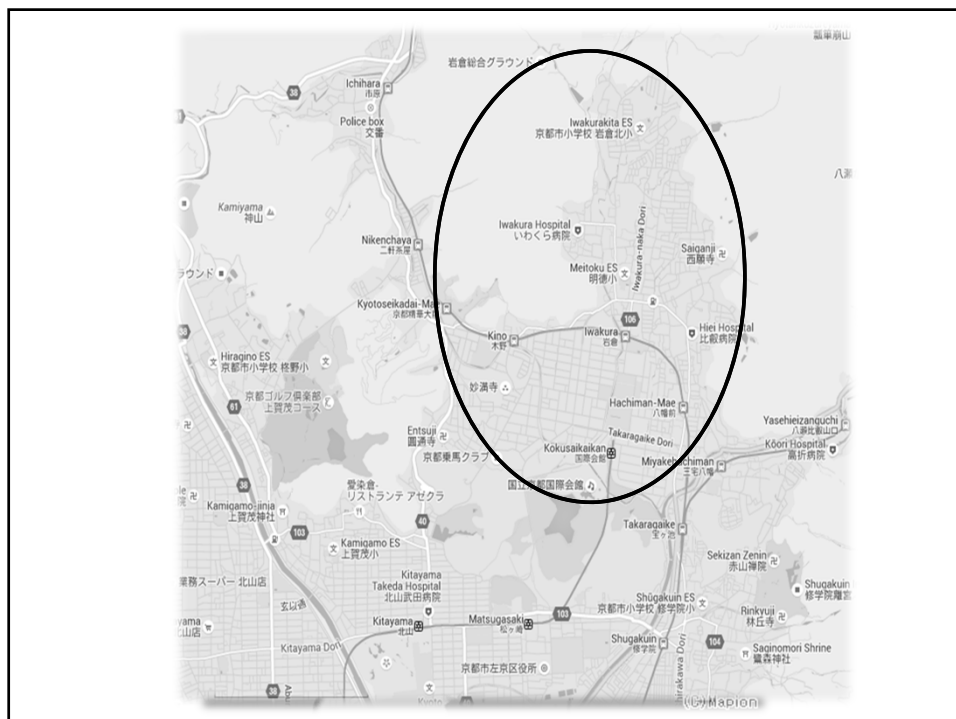
京都府 京都市

「行方不明を防ぎ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日(認知症介護研究・研修東京センター)

交通機関や地域の人たちとの アクション 〈声かけ訓練で広がる輪〉



京都市岩倉地域包括支援センター 松本 恵生
岩倉北民生児童委員・学区社協役員 福井 孝祐



京都府 京都市

岩倉地域の概略

	京都市	左京区	岩倉
人口	1,468,019人	167,113人	28,352人
世帯数	703,152	83,087	11,270
高齢化率	23.1%	23.7%	22.9%
要介護認定者数	56,214	6,546	813
要支援者数	22,906	2,393	343
地域包括支援センター数	61	7	1

平安時代以来の古刹である実相院や大雲寺が信仰を集めていた。
また、大雲寺と周辺の茶屋は近代医学以前の精神病者を受け入れ、療養地（日本のゲール）となったことで知られ、そうした伝統から現在も3箇所の精神科病院が存立している。幕末期、反幕派公家であった岩倉具視が難を避けて一時隠棲していたこともあり、その旧居が現在も保存・公開されている。

京都で認知症国際会議

- ・ **認知症の治療やケア、支援などの先進事例が紹介される国際アルツハイマー病協会（ADI）の国際会議が2017年春、国立京都国際会館（左京区）で開催されると発表。**
- ・ **「認知症の人が増えていけば、従来の施設や在宅サービスには限界がある」と指摘。**
「地域の中でどう支えていくかが次の課題。
会議では「本人と地域」に焦点があてられる予定。



越智俊二さんと須美子さん



- ・ 越智さんは2004年、京都で開かれたアルツハイマー病協会国際会議の席上、日本人として初めて実名で、若年性認知症であると語った(当時、57歳)。

- ・ 病気への理解を本人が訴えるという、認知症支援の新時代を告げる行動に対し、満場の聴衆は惜しみないスタンディングオベーションを行った。

- ・ 2004年の国際会議の3か月後に従来の呼称「痴呆」が「認知症」に変わった。

京都市地下鉄烏丸線における 認知症高齢者声かけ訓練 27.10.27



岩倉圏域でのSOSネットワーク

1. 岩倉学区街SOSネットワーク
2. 認知症高齢者行方不明声かけ・捜索訓練
平成23年から現在まで4年間取り組んでいます。

左京区でのSOSネットワーク

1. 交通機関との認知症高齢者行方不明声かけ訓練
平成25年から現在まで3年間取り組んでいます。
2. 左京区事業者連絡会におけるSOSネットワーク
平成27年3月から再スタートされました。

岩倉圏域でのSOSネットワーク

1. 岩倉学区街SOSネットワーク
2. 認知症高齢者行方不明声かけ・捜索訓練
平成23年から現在まで4年間取り組んでいます。

左京区でのSOSネットワーク

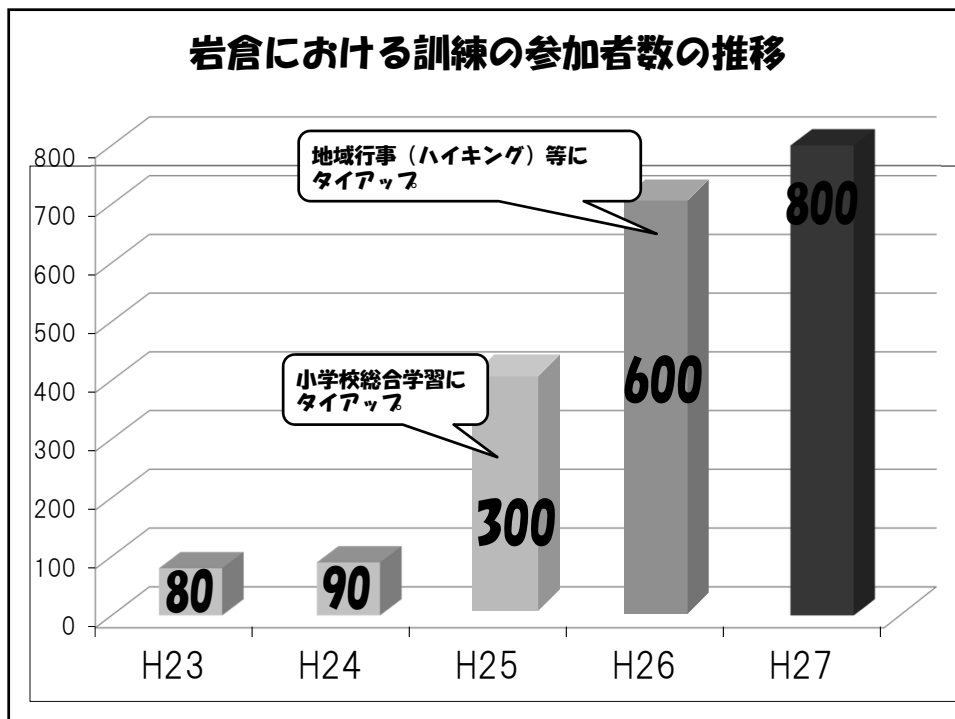
1. 交通機関との認知症高齢者行方不明声かけ訓練
平成25年から現在まで3年間取り組んでいます。
2. 左京区事業者連絡会におけるSOSネットワーク
平成27年3月から再スタートされました。

京都市の訓練は、亀岡市の訓練のTTPから始まった。

全国の取り組みを参考にさせて頂き、少しずつ拡大してきた。

TKP

今は…
OKP !!



H27年度 認知症部会の目標 3本の矢



- 岩倉南ふれあい祭りにて認知症の普及啓発
- 認知症のイメージを変える!! サポーター講座の拡大
- 岩倉3学区 認知症行方不明者 捜索・情報伝達訓練



京都市の事業
65歳以上の単身高齢者訪問事業

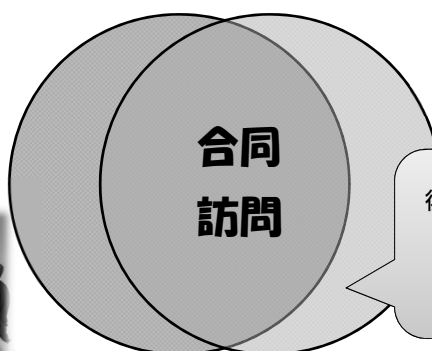
・ H24～ 事業開始

地域包括
65歳以上

消防署
75歳以上
高齢世帯

京都市の事業 65歳以上の単身高齢者訪問事業

- ・ H25から各学区ごとから始め
H27～は圏域すべて!!



徘徊のあるケース
ゴミ屋敷...etc

マップで確認



同行訪問をして感想

〈地域役員〉

- ・ 普段あまり顔を合わせない人も訪問という形をとることで直接会う事ができたため良かった。
- ・ 民生委員になり訪問に参加することで自分の知らなかった場所（ここにも家があるのか！など）を新たに知ることができた。

〈消防署〉

- ・ 防火指導の訪問を警戒されることがあるが、地域の方と一緒に訪問することで安心して受け入れてくれた。意味のある合同訪問になった。
- ・ 認知症の方、緊急通報システム+火災報知器の設置につながった。

〈地域包括〉

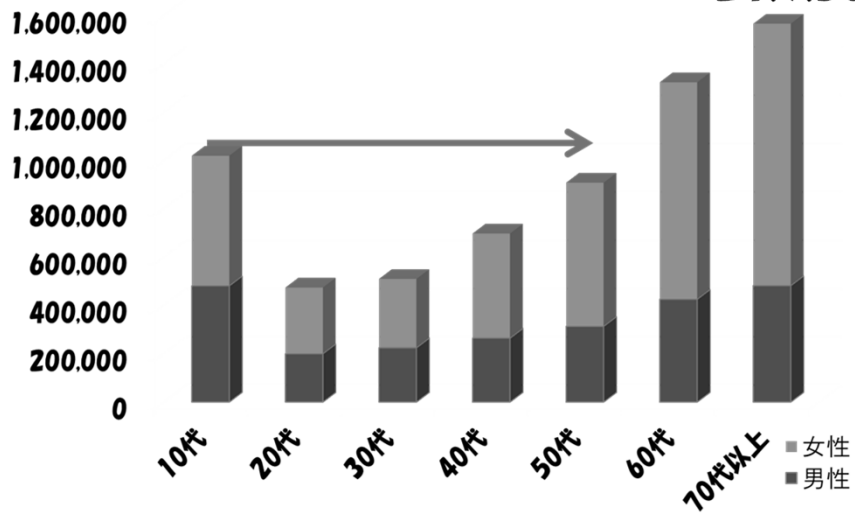
消防署と仲良くなることで、認知症の方で相談が停滞しがちな方の訪問が実現できることになった。入口問題が解決できる!!

避難訓練 岩倉北学区



性年齢別 サポーター数(全国)

H27.9.30



認知症部会にてメンバーからの言葉 今の現状…

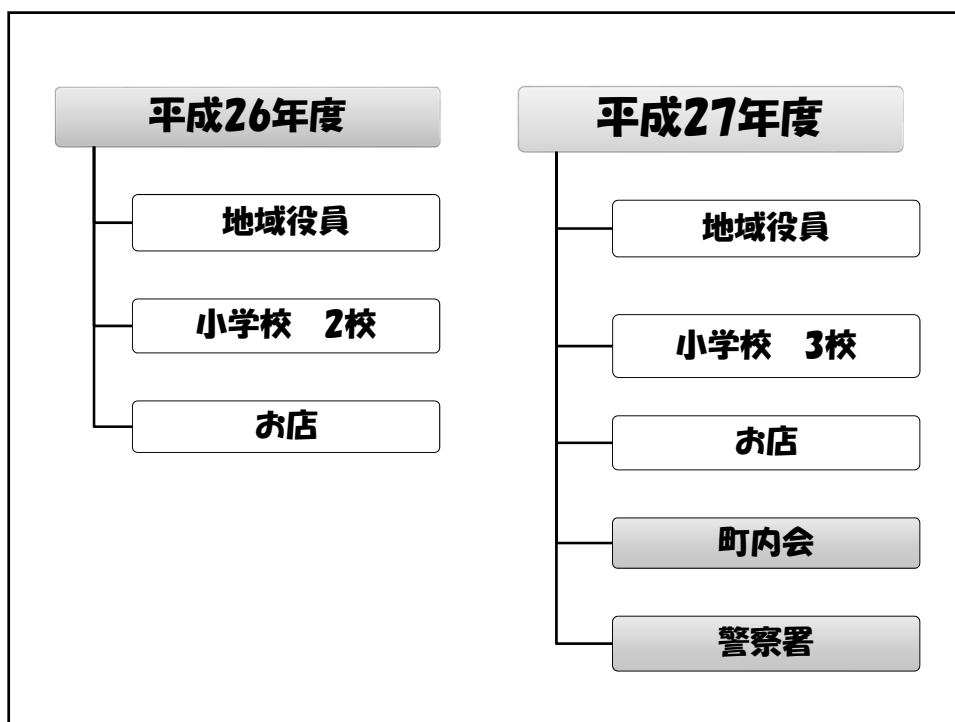
① 「認知症になっても安心して暮らせる地域」 の嘘

【認知症にだけはなりたくない】というイメージが根強い …。
質問、認知症を色に例えると…

② 「絶え間ない、継続されるケア」の嘘

- ・気づき～軽度の時期に対するケアがほとんどない。
- ・中～重度でケアの排除が起こってしまう可能性が高い。本人や家族にとっては、本当に一番ケアが必要な時にケアが届かなくな

訓練は、中～重度でケアがしんどい時期にサポートを担う力をつけるために



左京区の事業 【高齢者にやさしい店】



平成21年度から、左京区内の商店・金融機関等を対象に、認知症の症状やその対応などについて理解を深めていただき、高齢者にやさしい環境づくりを推奨する「高齢者にやさしい店」事業を展開。

認知症あんしんサポーター養成講座を年2回区役所で実施。

H27.12.1現在 257店舗



京都府 京都市



京都府 京都市



交通機関からの感想

- ・ 災害やテロなどを想定して、様々な訓練を実施しているが、「コミュニケーションがとりづらい方との訓練は初めてで大変勉強になった。訓練の経験を新人教育に活用したい。
【京都市地下鉄】
- ・ 今年も訓練やりましょう!!
認知症の方の対応マニュアルを作りました!!
【京都バス】

認知症の方からみた ユニバーサルデザインとは？

- ・ あなた・自分“が、認知症なった時に、社会・地域にどうしてもらいたいのか、どういう社会・地域になって欲しいかということであり、認知症の人を地域から排除しないケアのことでもある。

まとめ

SOSネットワークや訓練を行うことの意義

- ・【認知症にだけはなりたくない】というイメージを変えるための戦い。

「認知症になっても安心して暮らせる地域」の嘘
⇒現実にする

- ・ここで得た“人とのつながり”“地域のネットワーク”は、“認知症の方を地域で支える”ことだけでなく、一人暮らしの見守りや、災害、障害や精神の領域の方をどうするか…にも、つながってくる。
⇒例えると漬物・煮魚

参考資料

○京都市地下鉄烏丸線

認知症高齢者行方不明者 声かけ訓練（左京区）
平成27年10月27日

*左京区事業者連絡会メールリングリストにて、
左京区内の介護保険事業所約130カ所に
メールにて情報伝達訓練を同時実施



京都市地下鉄烏丸線 平成27年10月27日(火) 認知症高齢者行方不明者 声かけ訓練(左京区)

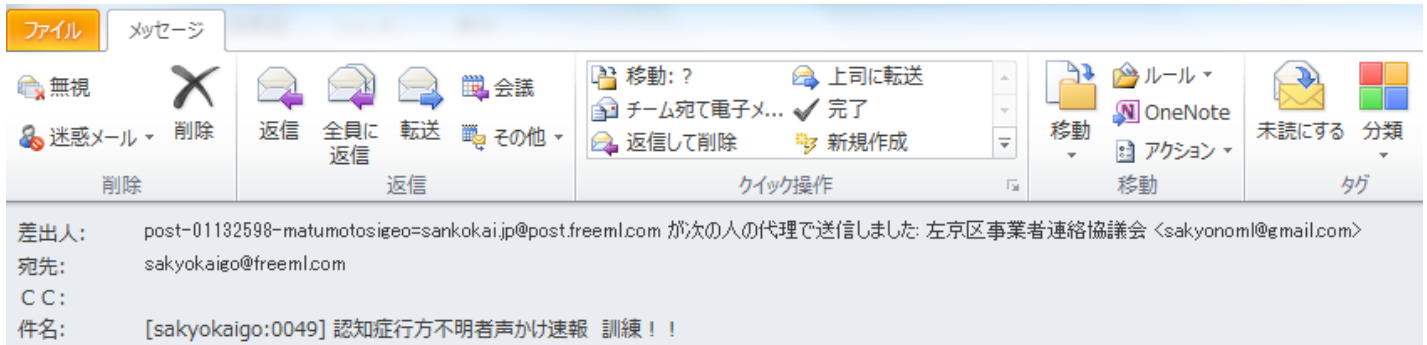


認知症高齢者役の左京区役所支援課:小林課長が歩きます。



認知症の普及啓発
鴨川・北大路バスターミナル・北大路駅にて、認知症を見守れる地域作りを目指し、左京SOSネットワークのチラシとティッシュの粗品を配布。客待ちタクシーの運転手さんにも協力の依頼。
「ご苦労さん!!大事なことやね!!」

左京区事業者連絡会メーリングリストにて、左京区内の介護保険事業所約130カ所にメールにて情報伝達訓練が同時に行われる。



本日、10月27日（火）午前8時30分頃、ヘルパーがご自宅に訪問すると本人不在と当事業所に連絡が入りました。過去に京都市営地下鉄国際会館前で発見されて経過があり、地下鉄乗車の可能性があります。

行方不明者情報

氏名 小林真司（こばやししんじ）
 住所 京都市左京区下鴨上川原町62
 生年月日 昭和20年04月08日 70歳、男性
 身長 165センチくらい
 体重 85kgくらい
 メガネ、短髪、杖無でスタスタ歩かれます。
 カバン・帽子の着用を普段されています。
 一人暮らし 要介護2

担当ケアマネジャー 居宅介護支援事業所ゆりかもめ 八木理（やぎみち）
 電話：075-723-7720

当該情報につきましては、行方不明者の発見に協力する法人・団体等への提



地下鉄に乗車した可能性があるとの情報により、依頼書を北大路駅へ届け。

北大路駅より、行方不明者の情報が各駅に緊急連絡。



ホームから駅務室に誘導。



下鴨警察署より警察官が駆けつけてくれる。



地域包括・娘が駆けつける。



紫雲苑事務長・居宅のケアマネさん・地域の社協・民生委員さんも駆けつけてくれました。



「行方不明を防ぎ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日(認知症介護研究・研修東京センター)

グループホームをわが町の安心拠点に:ふだんからつながり、備える

「グループホームいずみ」での生活
今まで出来ていた事ができて、
普通に生活を送れること

西東京市グループホームいずみ
本人+職員+ご近所さん+市行政職員+学生



毎日の買い物



小学校区での新年会

認知症になっても.. 普通に生活する、好きな時に外出する

入居者の思い・・・
今までしていたように
生活したい!

最期をここで、
迎えたい

毎日の日課は、掃除、洗濯、
買い物、食事づくり、
楽しいお出かけ・・・など

好きな時に自由に
外出したい

東京都 西東京市



地域の会合で尺八と合唱を披露



スーパーに夕食の買い物



裏庭で野菜づくり



皆さま家事はお手の物

家族とのお出かけ(サンシャイン水族館)



東京都 西東京市



お隣の農協さんのお食事会に招かれて



募金活動・・・保谷駅前にて



地域の会議に出席して 毎月



男子会 近所の居酒屋にて

東京都 西東京市



毎年恒例の地域との餅つき



入居者がもてなすうどんづくり 毎年



地域交流のうどんづくり



地域子ども達とうどんづくり

ここでの生活、ここでの最後



東京都 西東京市

○独居の高齢者が自分のお弁当を持ち寄って、グループホームの入居者も参加して一緒にお昼を食べるサロン、地域住民と行う地域清掃



西東京市で「模擬訓練」を
やってみようと思った・・・



規模は小さくても、地域の課題に気づいて
地域の人と人が仲良くなることが大切



★ 毎年、コツコツと、地域の人たちと造り上げる ★

東京都 西東京市

- 第1回目 2011年3月 泉町地区
- 第2回目 2011年10月 保谷地区
- 第3回目 2012年12月 田無地区
- 第4回目 2013年 6月 泉町地区
- 第5回目 9月 東伏見地区
- 第6回目 2014年10月 泉町地区
- 第7回目 2015年 9月 泉町地区



行方不明役を買って出た地域のおじさん →



「模擬訓練」in泉町の様子

(第6回目)2014. 10.5 実施



(第7回目)2015.9.27 実施



やり続けて気がついたこと・・・

もしかしたら、市民、事業者、行政が、
何かを一緒にやっていくことは、
そんなに難しくないのかもしれない・・・

- トップ⇒ダウン ではなく、ダウン⇒トップ
地域が市民が何を感じて何を求めているのか
を感じ取ることが、行政には必要・・・。
- 市民は、自分達の地域をもっと良くしたいと、
自分達の手で何かしたいと、切望している。
- 認知症は身近な自分達の問題、地域の問題だと分かった。
- 子供の時は分からなかったが、自分のおばあちゃんが、
認知症だったんだと今になって分かった。

- 徘徊模擬をやって、更に地域の力を借りることができて、協力を得られるよ
うになった！
- グループホームいずみの中庭を地域の「寄合所」として開放し、地域の交流
スペースにした。（オープニングパーティ、さんま大会、お茶会等）
- 地域住民とグループホームの共済で、災害・防災訓練を行った。
- 児童青年課と高齢者支援課主催の「児童とグループホームの合同うどん
づくり などなど・・・



(寄り合い所 いずみサロン 5月～開始 毎月第3金)

GHと地域との防災訓練・・・そしてサンマ！！



○グループホームは地域交流の場。

ホームの中庭を地域の「寄合所」として開放し、地域の交流スペースに（バーベキュー、さんま大会、お茶会、等）
★ふだんからのおつきあい！⇒お互いのいざという時の支えあい



普通に生活を送れること
地域の中で、地域とともに

本人たち、職員の普通の暮らし・願いを
よく知り、よく聴き、「いいね！」といってくれる
市の担当者がいてくれる！

認知症高齢者に向けた 西東京市での取組 (抜粋)



いこーな

西東京市 マスコット
キャラクター

平成27年12月18日
西東京市 健康福祉部高齢者支援課

■西東京市について

西東京市は、平成13年1月21日、田無市・保谷市が合併したことにより誕生した、21世紀最初の市です。



西東京市は、武蔵野台地のほぼ中央に位置しています。北は埼玉県新座市、南は武蔵野市および小金井市、東は練馬区、西は小平市および東久留米市に接しています。

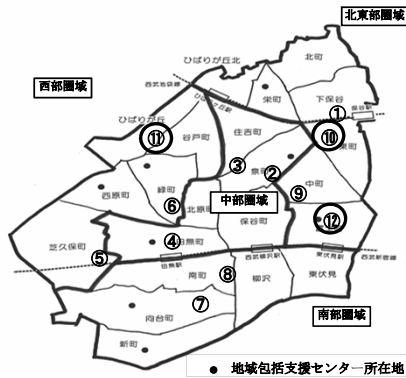
都心へのアクセスがよいベッドタウンとして知られており、田無駅から西武新宿駅まで急行で19分、保谷駅から池袋駅まで準急で17分、また西武池袋線では東京メトロ有楽町線、副都心線の相互直通運転だけでなく、最近では東急東横線、横浜高速みなどみらい線との相互直通運転も開始され、より都心へのアクセスがよくなっています。

<西東京市の概要>

- ◆ 人口
男: 96,979人 女: 101,288人
世帯数: 92,610世帯 計: 198,267人
(平成27年1月1日現在)
- ◆ 面積
15.85km² 東西4.8km² 南北5.6km²
(39市町村の中で26番目)
- ◆ 市役所の位置
合併に伴い田無(南町)・保谷(中町)に庁舎を設置
- ◆ 姉妹都市・友好都市
福島県南会津郡下郷町 平成13年10月4日～
千葉県勝浦市 平成15年10月22日～
山梨県北杜市 平成13年10月4日～

■西東京市の地域密着型サービス

<西東京市内 グループホーム 位置図 H27.12.18現在>



認知症対応型共同生活介護	北東部	中部	西部	南部	合計
事業所数	4	3	3	2	12
定員数	72	36	44	36	188

◆その他の地域密着型サービス

- ・小規模多機能型居宅介護 3事業所
⇒⑩、⑪、⑫の事業所(併設型)
- ・認知症対応型通所介護 7事業所
- ・夜間対応型訪問介護 1事業所

◆運営推進会議

グループホーム、小規模多機能型居宅介護共に、おおむね2か月に1回開催。
平成26年度より、市の職員も担当制にて出席。

■運営推進会議について

運営推進会議は、介護保険法の「指定地域密着型サービスの運営に関する基準」において新たに定められたもので、認知症対応型共同生活介護及び小規模多機能型居宅介護事業所(以下、「グループホーム等」という。)に設置が義務づけられています。

目的

- ・グループホーム等の事業者が自ら設置し、利用者、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることにより、事業者による利用者の「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的としている。

構成員

- ・① 利用者及び利用者の家族
- ・② 地域住民の代表者
- ・③ 事業所が所在する区市町村の職員または当該区域を管轄する地域包括支援センターの職員
- ・④ グループホーム等について知見を有する者など

内容

- ・事業者は、左記構成員による運営推進会議を設置し、おおむね二月に一回以上開催し、当該会議による評価を受けるとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならないと定められている。

■西東京市における主な認知症施策

徘徊模擬訓練

市、地域包括支援センター、グループホーム、介護事業者、民生委員、市民など様々な方が参加。認知症に対する正しい理解と声かけができる人を地域の中で増やすことを目的に実施。

認知症を知る1か月キャンペーン

市では10月を「認知症を知るキャンペーン期間」として位置付け、認知症についての様々な普及啓発活動を実施。

認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、地域で生活している認知症の方や家族を見守り、自分でできる範囲で支援をする方を養成することを目的としている。(認知症サポーター)

■徘徊模擬訓練について

事例紹介

徘徊模擬訓練の実施（西東京市）

安心して生活できる地域を目指して

- ▶西東京市では、平成22年度から、認知症の高齢者が行方不明になったという想定のもと、行方不明高齢者の仮を演じる人を、地域住民や近隣区市などから参加した約100名がグループで演習する「徘徊模擬訓練」を実施しています。
- ▶訓練をきっかけとして、地域で認知症に対する正しい理解や声かけができる人を増やすことで、認知症になっても安心して生活できるまち（安心して徘徊できるまち）づくりを目指しています。
- ▶訓練実施に当たっては、市や地域包括支援センターをはじめ、市民、認知症グループホーム職員、介護事業者、民生・児童委員、警察署、消防署等、幅広い関係者に参加を呼び掛けています。
- ▶また、訓練終了後に、参加者同士で感想や気付きを振り返ることも大切にしています。参加者からは「訓練をやってみて、声を掛けるのは難しいということが分かった。声を掛ける練習も必要ではないか」「地域での連携が重要だと思う」といった感想が多く聞かれ、訓練を通して、住民自ら主体的に地域づくりに関わっていく意識や地域での連携感が生まれていることが伺えます。



徘徊シミュレーションに参加している様子



行方不明高齢者役の人を探検する住民参加のグループ

◆西東京市での取り組み状況

- ◆ **開始**
平成22年度より実施(中部圏域)
- ◆ **主催**
西東京市認知症対応型共同介護事業所分科会
(共催:西東京市)
- ◆ **平成27年度の新たな取り組み**
南部圏域においても、2つのグループホームが共同して実施。
- ◆ **今後の方針**
西東京市内の各圏域毎に実施していくことで、より多くの
人に認知症に対する理解を深めてもらうことを目標としている。

東京都福祉保健局「高齢者の見守りガイドブック」より抜粋

「行方不明を防ぎ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日（認知症介護研究・研修東京センター）

「ひとり」を支える個別支援ネットを積み上げる
～リスクを抱える本人・家族の声に耳を澄ませながら～

岸和田市福祉政策課 庄司 彰義
岸和田市地域包括支援センター社協久米田
三林 達哉

岸和田市(基本データ)

- 人口199,753人（H27.4月）
- 高齢化率 25.0%
- 後期高齢化率 11.5%
- 介護認定 10,153人
- 認知症日常生活自立度Ⅱ以上 約6,000人
- 地域包括支援センター委託型6箇所



行方不明を未然に 防ぐために・・・ 何ができるか？何をすべきか？

認知症見守り・SOSネットワーク

○行方不明時の対応

1. SOSネットワーク
 - ・模擬訓練
 2. 早期発見策
 - ・GPS機能
 - ・ネームプレート
 3. 身元不明者の保護
 4. 居室確保
 6. 遠方に行った場合の対応
- *警察との連携

○行方不明を未然に防ぐ

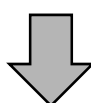
何ができるか、
ここが大事

- *地域の見守りの個別強化
 - ・見守り対象者の把握
 - ・つなぐ
- *本人・家族が安定・安心して暮らせるための検討・会議
 - ⇒プラン・支援の補強
- *多職種連携

事後対応

4

- 地域で暮らす“ひとり”を実際に支えるしくみを
ていねいにつくりだし、積み上げていくこと
の重要性
- 個別課題を丁寧に検討して、個別支援と地
域づくりに展開するプロセス



新オレンジプランとしっかりつながるか？

5

実態把握：

当事者にゆき届く支援を生み出すために

- 行方不明になる可能性のある方はどれくらい？
- 毎年、どれくらい警察で保護されているのか？
- 毎年、どれくらい警察に行方不明届けがでているか？
- 各市町村、もしくはそれぞれの担当する地域(例えば
中学校区、小学校区)でどれくらいの行方不明になる
可能性のある方がいるのか？
- 本人、家族はどんな悩みを抱えているのか
- 事業所だけで抱えていないか？

6

警察への届出、保護件数

	平成24年	平成25年	平成26年
行方不明届出数	27	24	43
保護件数	113	114	151

岸和田警察署調べ

7

行方不明を未然に防ぐ(何ができるか)

- 注意が必要な人の把握
 - 支援体制づくり(様々なサービス)
 - 多職種連携
 - 地域の見守り
 - 地域ケア会議の活用
- ※地域の見守りは、誰を見守るか明確であればこそ(知っていることで)、より見守りができる。
- ※地域に知られたくない人もいる。単なる情報提供ではなく、顔を合わせ、信頼関係を築きながら地域の見守りにつなぐことができれば。

8

「ひとり」の支援体制づくり(岸和田市の場合)

- 例えば、SOSネットワークの事前登録から
 日常の相談から(家族、ケアマネ、地域住民)
 警察から相談
- ⇒ 市と地域包括支援センター職員で本人を訪問
 ⇒ 声(話)を聴く ⇒ シート作成、リスト作成
 ⇒ 毎月の定例会議で確認し継続(ここが大事！)
- 多職種連携、地域の見守り
- 地域ケア会議で検討
 例)医療介護連携チームで支援
 例)市民後見人が選任され見守り中心の後見活動

9

リストを作って、訪問して分かってきたこと

リストから

(1例1例の具体情報から)

- 家族だけや、ケアマネだけで抱えている
- 入院、入所になる場合、1～2年が大事
- ケアマネが地域の見守りにつなぐことは少ない
- ケアマネから地域包括へ相談は少ない
- 事前登録は、ケアマネジャーからすることが多く、介護認定受けていない、サービスを利用していない人の把握が難しい

訪問して

(本人、家族の声を聴いて)

- 家でゆっくり過ごしたい
- いつも同じところへ行く
- 強く言われて、出て行ってしまう
- 近所の人がよく見てくれる
- 近所づきあいがなくなってきたずっと家にいる。

10

行政と地域包括支援センターの連携

- 昨年5月から、行方不明のおそれのある方を把握し、一覧リストにして、毎月地域包括支援センターと会議を開催。事前登録者、個別に相談あった方、警察から連絡受けた方、それらをリストにしてその中で特に要注意のある方のところに直接連絡して訪問。その時、地域包括支援センターにも同行してもらいました。（一緒に動く）

今では、そのリストを6つの地域包括支援センターの圏域ごとに分けて、地域包括支援センターに配布→地域包括からケアマネジャーに連絡して訪問し個別に相談うけたり地域の見守りにつないだり。ケアマネジャーがいない場合は市から家族に連絡して地域包括支援センターが訪問しています。毎月の会議で報告し話し合います。

11

相談から支援（ワンストップ）を重視。

例えば

- 80代女性が道に迷い、警察で保護される。
名前は言えるが住所分からない ⇒ 警察から市へ
- 市内に住む母、息子は近くに住む、介護認定受けておらず。（認知症の初期？）
- 翌日、訪問 ⇒ 話を聴く
- リストへ
- 地域包括と訪問
- 支援継続

「ひとり」を確実につなげ・支えることを
行政職員が先頭にたって実践する。
⇒ 活きたケアバスづくりにもつながる。

12

その人だけを対象にした見守り隊

- 70代女性でひとり暮らし。

外出すると家に戻れず道に迷うことがよくあり、地域ケア会議（地域住民してその後、地域でその方だけを対象にした見守り隊（地域住民、介護事業所、社協、よく行くお店、主治医など）を作った。

（ぽかぽか隊！）

※岸和田市社協のゆるキャラ『ポカボー』から

13

漠然としたものではなく、ひとりの支援を積み重ねる⇒ ひとりを支えることを地域が積み重ねる

- 現実として、認知症になっても安心して出歩ける〇〇〇市全域は非常に難しい。
- しかし、認知症でよく道に迷ってしまうAさんにとって安心して出歩けるなじみの地域づくり（Aさんのなじみの地域）は可能。



- この小さい個人の安心できる地域、連携を積み重ねる

14

そして2人、3人へ

- 例えばBさん
- よく行く場所、なぜ、どういったときに出て行ってしまうのか？戻れる時、場所？戻れない時？なじみのお店、散歩道、
→マップなど作って見たら？



- どうすれば、家族、地域住民、多職種で支えることができるか？見守れるか？

15

例えば、遠方に行って保護された

- 誰が迎えに行くの？
送っていくの？
 - ・ 家族、
 - ・ 介護事業所
 - ・ 行政
 - ・ 警察

- 自宅に戻れるか？
- 遠方に行くくらいだから繰り返しが怖い。自宅無理ではないか？
- 施設すぐ無理なら、入院しかない？

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりってよく言うけど…。現実の課題は

- 自宅で暮らし続けるためには？
- 自宅に戻ってから多職種、住民で支えていけるかが大事
- 何のための
認知症サポーターか
多職種連携か
真価が問われるところ。

16

行政として大事にしていること

- ・「一人ひとり」の相談・支援を、現場任せにしない
- ・「一人ひとり」の相談・支援情報を現場でやりっぱなしにしない
 - ⇒行政として個別(支援)情報を集約し、リスト(一覧)作って、分析
 - ⇒行政職としても当事者を訪問して実感的に課題や必要なことをつかむ。
事後報告や記録、会議のみからでは掬い取れないでいた課題・必要性、行政としてやるべきことが具体的に分かってくる。

17

行政としての役割と地域づくりのポイント

岸和田市として重視してきた点

行政としての役割



地域づくりのポイント

- * 施策づくり
継続発展を担保
- * (実施)計画づくり
目的の具体化
- * 組織・体制づくり
- * 方向性を示す
- * 人を育てる
- * コーディネート役
- * 現場の発案を後押し
「いいね、やってみよう」等

- 本人や家族の声を聴くこと
直接の支援や関わりの中で
地域・最前線に出向いて
- 役所の窓口を活かして
- 住民から聴くこと
- アンケートを活かす
- 専門職を通して

- ★ 地域にいる人たちと共に
(パートナーとして)

18

岸和田のソフトボールチーム(毎月練習)



1

若年性認知症の本人、家族交流会



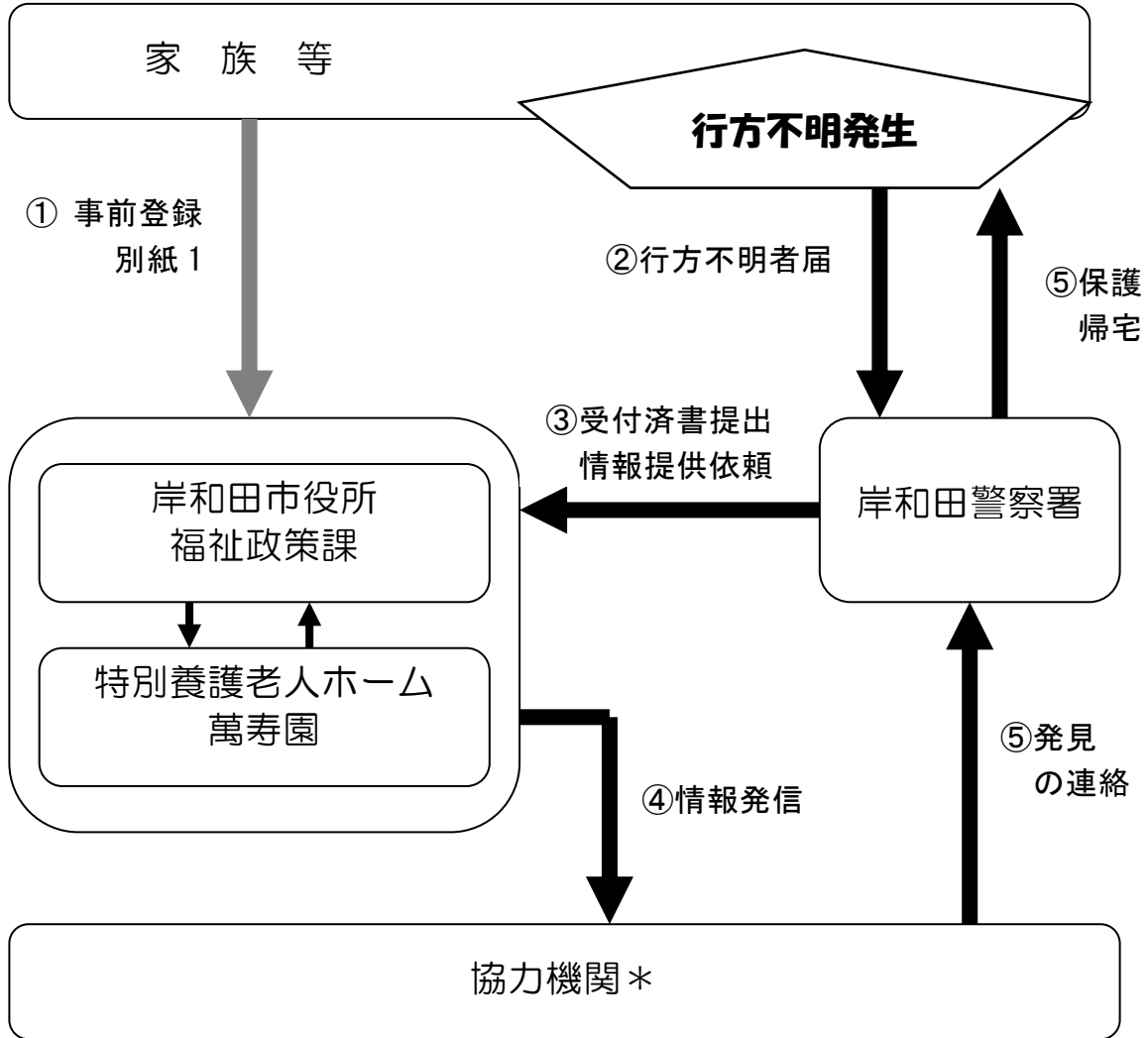
この日は卓球、カラオケ
大会(27年9月)



2 山歩こう会(2ヶ月毎)

岸和田市 高齢者等見守りネットワーク

<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/31/mimamori.html>



*岸和田市 高齢者等見守りネットワーク協力機関（HPに事業所名を掲示）

協力機関数：189（平成27年9月1日現在）

医療機関	22	公的機関	3
介護事業所	117	薬局・薬店	13
企業	18	理容・美容	4
交通機関	4	その他	8

（別紙1） 岸和田市高齢者等見守りネットワーク登録届

緊急時の早期発見のため、次のとおり事前登録します。

本人の状況	ふりがな				
	氏名				
	生年月日	明治 大正 年 月 日生 昭和 (歳)	性別	男 ・ 女	
	住所	岸和田市			
	写真添付 (添付できる場合は添付してください。)	特徴	身長	c m	
			体重	k g	
			頭髪		
ヒゲ			あり ・ なし		
眼鏡			あり ・ なし		
	その他				
		氏名、年齢 等が言えるかどうか			

上記の情報を、緊急時に協力員及び協力機関へ提供することに同意します。

年 月 日

本人氏名 _____ ⑩

家族等氏名 _____ ⑩ (関係)

住 所 (本人と同居の場合不要)

連絡先 (電話) _____

**【情報提供】 行政と警察が力をあわせて、市町村の最前線を支える
しくみをつくる**

行方不明・身元不明高齢者に関する
大阪府・大阪府警察の取組み

大阪府福祉部高齢介護室介護支援課

大阪府における行方不明・身元不明高齢者の状況

行方不明高齢者

■警察に届出のあった行方不明者の状況

⇒ 1,921人(全国トップ)
(平成26年度)

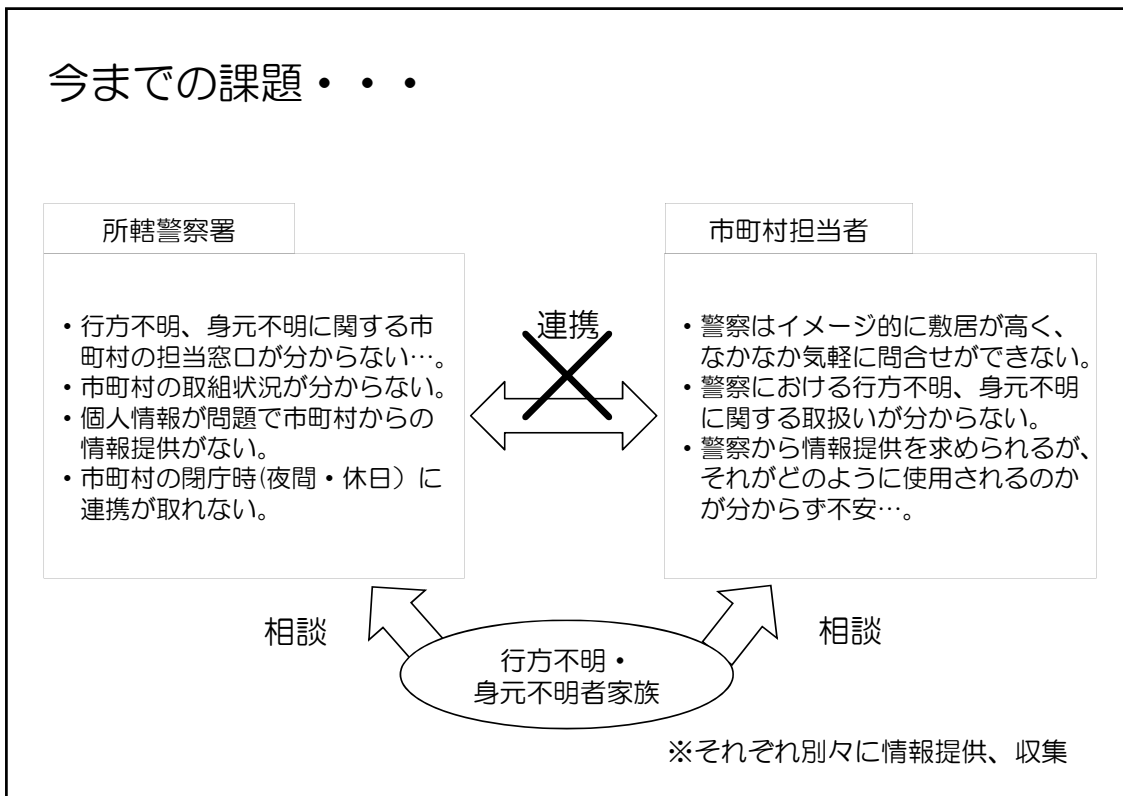
※認知症高齢者の行方不明届出状況は
全国でトップになっているが、これは
実態としては、高齢者が行方不明に
なった際、すぐに届け出を提出頂く
よう徹底しているためである。

身元不明高齢者

■大阪府内の身元不明者数

⇒ 38人
(平成27年11月5日現在)

今までの課題・・・



きっかけは・・・

平成26年6月に大阪府が独自で行った
「大阪府内における身元不明高齢者に係る調査」

→調査結果の報道発表を行ったところ、大阪府が市町村を通じて情報収集を行い取りまとめた身元不明者数と、大阪府警察本部で把握している数が異なることが発覚。

課題が明確に

お互いの持つ情報の交換や役割の明確化の必要性を認識

警察と行政の連携強化に向けた取組

1. 市町村SOSネットワーク連絡会への大阪府警察本部担当者の出席
2. 身元不明迷い人台帳閲覧制度
3. 「認知症地域資源ネットワーク構築セミナー」への大阪府警察本部担当者の参加
4. 大阪府と大阪府警察本部の相互連携のための協定締結
5. 「行方不明者の早期発見及び身元不明迷い人の早期身元確認に関する運用」の策定
6. 所轄警察署での認知症サポーター養成講座の実施

1. 市町村SOSネットワーク連絡会への府警本部担当者の出席

大阪府が府内市町村認知症担当者向けに開催する「大阪府認知症高齢者見守りネットワーク連絡会議」に大阪府警察本部担当者の出席を依頼したところ、快諾。そこで警察からの情報提供を行った。

▶実績

【平成26年度】

7月16日、17日、23日、28日、29日（5ブロック別会議）

大阪府警察本部より情報提供

2月24日 認知症行方不明者及び身元不明者にかかる情報提供

【平成27年度】

7月30日 行方不明者及び身元不明者の取扱いについて

11月6日 大阪府警察による認知症高齢者対策の現状

2. 身元不明迷い人台帳閲覧制度

大阪府内市町村で身元不明者として保護されている方の早期身元特定を図るため、大阪府内全警察署において、「身元不明迷い人台帳」閲覧制度が、平成26年9月18日に、全国で初めて整備された。

この台帳では、他府県の方も含む55人（H27.12.1現在）の身元不明迷い人の情報が、行方不明者届を提出している家族等に公開される。

※身元不明迷い人台帳(例)

▶身元不明迷い人台帳に関する大阪府の対応

- 本閲覧制度を実効性のあるものとするため、大阪府としても市町村に身元不明で保護されている方の情報が、できるだけ提供されるよう、市町村に対し随時依頼を行うなど、身元不明者の早期身元特定に向けて、全面的に協力をしている。
- また、府のホームページにも身元不明者のサイトを開設し、「身元不明迷い人台帳」閲覧制度に誘導し、府内市町村や大阪府警察本部（警察署）との連携強化を図っている。

▶行方不明迷い人台帳による身元判明について

平成26年9月の制度運用開始から台帳などがきっかけとなり6人の身元が判明。

- 他県警で実施されている台帳制度で、他県警から送付されてきた台帳情報と、大阪府の行方不明者との情報が一致し、身元が判明
- 台帳作成に関する協議の際に、市町村から大阪府警察に提供された情報などから5人の身元が判明。

3. 「認知症地域資源ネットワーク構築セミナー」への大阪府警察本部担当者の参加

「認知症の方が行方不明にならず、安心して暮らせるまちづくり」をテーマに実施した「認知症地域資源ネットワーク構築セミナー」に大阪府警察本部の担当者が出席し、情報提供を行うとともに、市町村・地域包括支援センター職員と一緒にグループワークに参加。

第1回：平成26年10月21日（火）

第2回：平成27年 2月24日（火）

大阪府警察本部と市町村・地域包括支援センターの職員が同じテーブルで話すことにより、相互理解が進んだ。

▶当日のグループワークの様子

※各グループに分かれて検討



※ポストイットを使って課題等を抽出

4. 大阪府と大阪府警察本部の相互連携のための協定締結

▶平成27年3月24日（火）

大阪府と大阪府警察本部は、認知症や障がい、疾病その他の理由による行方不明者や身元不明迷い人が増加傾向にある実情に鑑み、双方が協力して行方不明者の早期発見や身元不明迷い人の早期身元確認に資するため、大阪府福祉部長と大阪府警察本部生活安全部長との間で協定書を締結。

《協定概要》

1. 名称 行方不明者の早期発見及び身元不明迷い人の早期身元確認に関する大阪府と大阪府警察本部との相互連携の推進に係る協定
2. 目的 行方不明者の早期発見及び身元不明迷い人の早期身元確認を目的として、連携した取組みを行い、もって、府民の誰もが安心して生活できる社会の実現を目指す。
3. 内容 行方不明者及び身元不明迷い人に関する情報を共有するための連携体制の構築
(大阪府)
 - ・ 関係部局における情報共有と、必要に応じた府内各市町村担当部局への伝達
 - ・ 大阪府や所轄警察署に適宜情報提供がなされるよう、府内各市町村に対する協力依頼(大阪府警察本部)
 - ・ 府内各警察署の関係部署と情報共有
 - ・ 府内各市町村と府内各警察署で、必要な情報の共有がなされるように、府内各警察署への指導

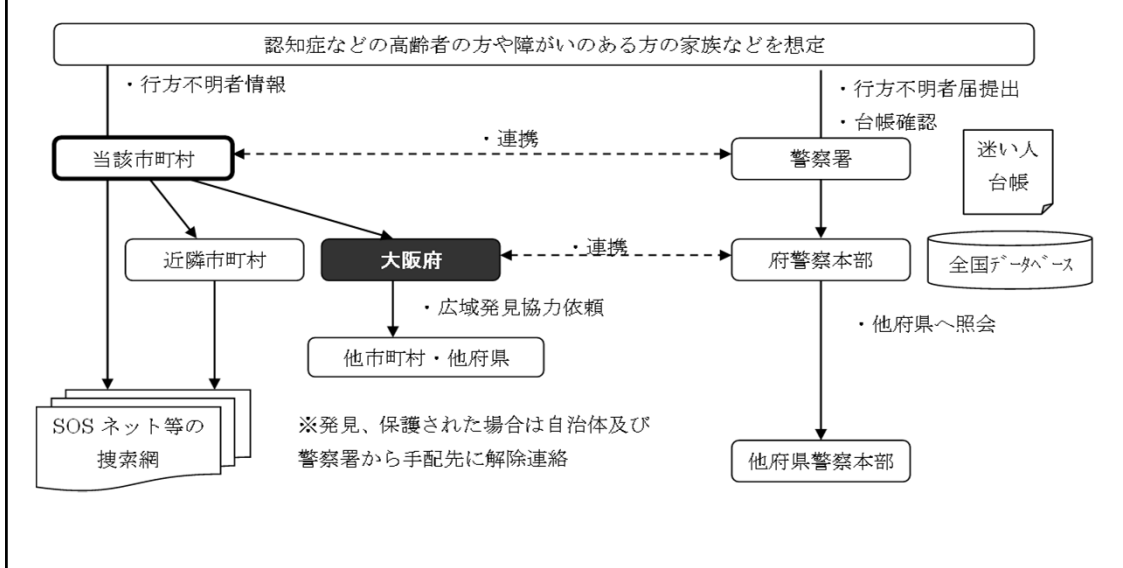
5. 「行方不明者の早期発見及び身元不明迷い人の早期身元確認に関する運用」の策定

各市町村と警察とが相互連携の推進に理解・協力し、今後の身元不明者の早期発見、身元不明迷い人の早期身元確認に資する為の取組みとして活用するため、「行方不明者の早期発見及び身元不明迷い人の早期身元確認に関する運用」を策定。

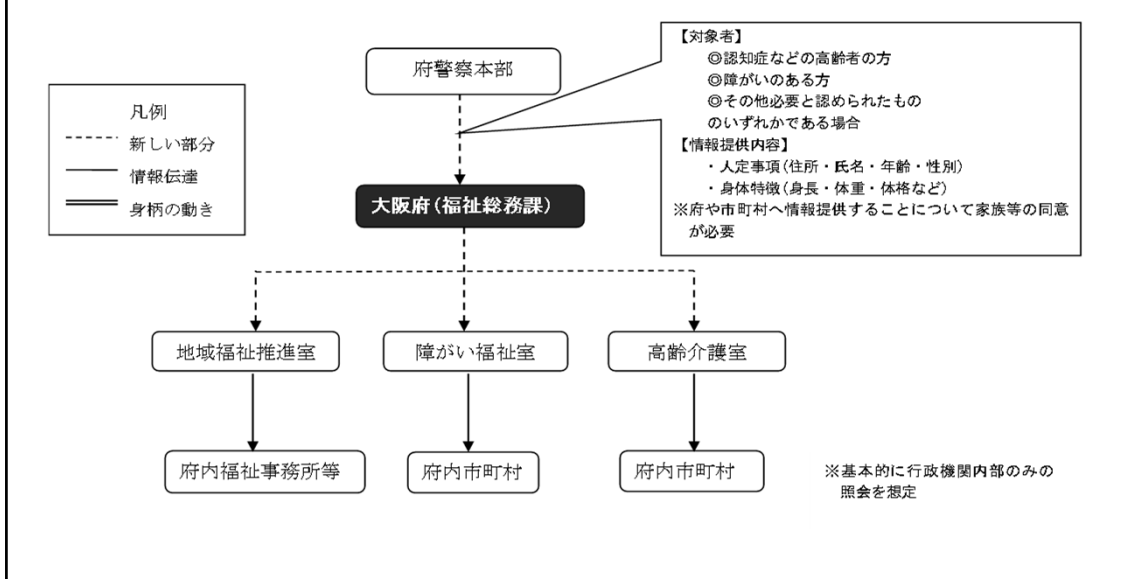
(平成27年3月24日 市町村へ通知)

大阪府・大阪府警

▶各機関の役割【行方不明の場合】



▶家族等が警察に行方不明届を出され、その後10日以上発見にいたらない場合



▶各機関の役割【身元不明の場合】

- 警察が通報により身元不明迷い人を保護し、警察が身元照会を行っても身元判明がなされなければ、24時間以内に当該市町村が身元不明者を保護。
- 当該市町村は大阪府へ情報提供をするとともに、1か月を経過しても身元判明に至らなければ警察に身元不明迷い人台帳への掲載申請を行う。
- 身元不明迷い人台帳への掲載が完了後、大阪府は府ホームページの身元不明者情報に、身元不明迷い人台帳番号を記載。
- 大阪府と警察、府内市町村が相互に連携を行うことで、行方不明高齢者の捜索を続けるご家族等に手掛かりとなる情報の提供を行っていく。

6. 所轄警察署での認知症サポーター養成講座の実施

- 大阪府との協定を締結したことにより、現場警察官の認知症高齢者に対する理解が一層なされるよう、認知症サポーター養成講座の受講をより推進することとした。
- 平成27年7月、大阪府警察初の認知症キャラバンメイトが誕生。
→警察に特化した実践的な講座内容の実施が可能に
- 平成27年4月から本格的に受講をはじめ、現在約4,200人が認知症サポーターとなった。

▶参考：警察による認知症サポーター養成講座の取組み



サポーター養成講座の受講の様子

新聞でも紹介されました！



連携強化による変化について

- 市町村連絡会に出席した大阪府警察本部の方から、警察署との間で問題が生じた場合は、調整を行うと言ってくださったので市町村としても心強かった。（市町村担当者の声）
- 警察署へ何らかの依頼をする際に以前よりも敷居が低くなり、例えば、模擬訓練への警察の参加依頼がしやすくなった。
- 大阪府警本部が介在することで大阪府としての課題が明確になり、庁内の横の連携（他部署）が進んだ。
- 各警察署で認知症サポーター養成講座を実施する際に、大阪府警察本部と市町村が連携し、講座の中で地域包括支援センターの職員が情報提供を行うことで、現場での顔の見える関係作りが進んだ。

おわりに

- 行方不明者の捜索、身元不明迷い人の早期身元判明については、市町村と警察が密に協力しあうことが必要不可欠である。
- 大阪府と府警本部が連携強化をしたことにより、今まで理解が不十分であった相互の内情が分かるようになり、より適切に行方不明・身元不明高齢者発生時の対応がなされるようになった。
- 今後も大阪府と大阪府警本部、市町村と各警察署の連携を深めていくことで、行方不明・身元不明高齢者に対する迅速な対応を行っていきたい。



「行方不明を防止 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり全国フォーラム」
2015年12月18日(認知症介護研究・研修東京センター)

畑を舞台に、地域に根差したつながりと認知症SOS探索訓練が広がる

～立場を越えたアクションミーティングを積み重ねながら～



新潟県湯沢町 アクション農園倶楽部団長 丸山静二
健康増進課 保健師 國松明美

湯沢町の紹介



湯沢町(ゆざわまち)は、古くから温泉場として知られ、川端康成の小説『雪国』の舞台、近年では**フジロック・フェスティバル**の会場でもある**苗場スキー場**がある。湯沢町は緑豊かな自然に抱かれた町

面積: 357.00km²(町のほぼ94%が山林が占める)
群馬県境の苗場まで町中心部から車で30分
(湯沢地区、神立地区、土樽地区、三国地区、三俣地区)
気候: 初雪11月中旬、雪解け4月中旬
積雪量 3m前後 約半年は雪との生活



人口: 8,204人 高齢化率**33.41%**(平成27年3月末)
マンション人口は総人口の約1割、マンション居住高齢者が増えている
世帯数: 3,4957
高齢者世帯数: 1,042(単身668世帯、2人356世帯、3人18世帯)

介護保険認定率**14.3%** 27年3月末(県平均18.8%26年3月末)
介護保険料5,000円/月(県内最低) 新潟県平均5,956円/月

新潟県 湯沢町

湯沢町認知症支援取り組み経過					13年度	18年度	20年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
高齢者のこころの相談会													
訪問支援員	在宅看護師追加												
認知症支援検討チーム	→												
元気パワーアップ倶楽部													
小規模多機能・GH													
お医者様楽部(小規模委託)	委託中止												
メイトサポーター養成	じよんのび劇団	医療介護連携	ひだまり開始 傾聴ボラによるつどい										
	認知症地域支援実習調査												
	湯沢町	認知症施策総合推進事業	→										
	大字湯沢	アクションミーティング	アクション農園	研修医・看護学生	フジロック	アクションGB	→						
	大字神立	ブログ	かわら版	SOS訓練(湯沢) SOS訓練(神立) SOS訓練(十樽)									
	大字三立	認知症対応型センター事業検討											
	大字三田	かたり湯9月~11月	6月開始月1回										
	大字三田	傾聴ボラ	→										
		センター方式基礎研修	センター方式フォローアップ	虐待不適切ケア 防止研修									
		介護者家族交流会1回	介護者家族交流会年4回	介護者のつどい最終課題	虐待研修								
		男性介護支援(美容しんぽ)											
		認知症地域支援推進委員会(中継事業)	認知症地域支援推進委員会(過去) 認知症地域支援推進委員会(現在)										

SOS訓練実施地域

大字数: 5
行政区数: 56町内

認知症行方不明SOS探索訓練を実施した背景・理由

- 要介護認定者399人うち認知症298人（74.8%）（主治医意見書）
65歳以上人口(2,741)の10.9%（27年3月31日現在）
- 認知症(主治医意見書)記載、在宅で自力移動可能者125人
- 介護保険新規申請者の28.6%が認知症(26年度申請者)
- 認知症支援キャラバンメイト39人 認知症支援サポーター809人(27年11月末)
- メイト+サポーターは65歳以上人口の30.9%
- 認知症サポーターのいる 企業団体18施設(行政・美容院・銀行・薬局)
- 行方不明の恐れのある人に付き添う家族自身も高齢になり、付き添いきれなくなっている介護者が疲れて昼寝をしている間に行方不明になり探索することがある

認知症高齢者が行方不明になった場合、重大な事故に至る危険性が大きく、家族や行政、専門職だけの対応は困難であり、地域住民の理解と早期発見対応の探索ネットワークづくりが必要

行政と専門職、そして地域住民が共に考え、動き出すために

アクションミーティング

25年度から開始

認知症の人と、家族と
ともに暮らせる地域をめざして
それぞれが声かけあって集まってみる
話し合ってみる
☆立場を越えて
行政の関係者、介護・医療職の関係者、
地域の仲間・知人、同級生、などなど

伸びのびと
話合う

出会い、アイディア、力、つながり、元気、
安心、希望、自分たちで生み出す

やりたいことが一致した人がチームを組んで
できることから、いっしょにアクション！

23年度認知症支援アクションミーティング後、24年度から始まった活動

アクション
農園倶楽部

おひさまの会
傾聴とは
こころをよせること

寄合どころ
お茶の間広場

高齢者
お役立ち
かわら版

かたり湯

認知症ケアパス



ちょっと一緒に動いてみると、思いがけない支えあいやアイディアが広がる！
出会えてうれしい！ 楽しい！ つながりが自己増殖
自宅や施設の認知症の人も、想像以上に生き生き！

認知症地域支援 SOS 探索訓練の企画実施も、行政や専門職だけでやらずに
アクションミーティングでするときっと行動化につながる！

25年度
開始

認知症SOS探索訓練アクションミーティング

参加者

- 訓練対象地区の町内会長、民生委員、住民(介護者、地区組織 老人クラブ その他)
- ファミリー健康プラン推進員(27年度)
- ケアパスアクションミーティング参加者(26年度)
- 認知症キャラバンメイト
- 社協、特養、小規模多機能型・グループホーム、病院、通所介護 町内全介護保険事業所から複数参加
- 認知症地域支援アクションミーティング参加者
- 警察署生活安全課
- 地元FM局

- 健康福祉部
認知症地域支援推進員、包括、保健センター、福祉介護課
- 総務部総務管理課
防災、消防団担当

認知症SOS探索訓練アクションミーティング 目標

～外出を見守れる町、安心安全な外出ができる町を目指して～

【長期目標】

地域の認知症理解を広め、外出を見守り、認知症の人が自宅や施設など生活の場へ戻れる対応(連絡先へ伝えること)ができる

【短期目標】

1. 住民と関係機関、行政が協働で認知症SOS探索訓練を企画し実施することで地域の認知症理解者が増える

自分の事として考える人を増やしたい **住民啓発**

2. 行方不明時の早期発見・対応の課題を明らかにし、対応手順の作成と体験として覚え行動できるようになる

手順書作成と実動経験

認知症SOS探索訓練アクションミーティング 内容

1回目:

現状理解と探索訓練のイメージづくり、探索訓練でしたいことの検討

2回目:

探索訓練の具体的なアクションプラン、シナリオ等の作成

3回目:

アクションに必要な仲間を誘って認知症地域支援
「サポーター養成講座」

4回目:

探索訓練本番 訓練の実施と反省会

立場を越えて、一緒に考え動く: 自分ごととして、わがまちのために

1年目(25年度)SOS探索訓練アクションミーティング

- ・ 認知症についてよくわからない。どのように声をかけたらいい? 接し方がわからない。
⇒3回目にサポーター養成講座をしよう!
- ・ 特別な訓練では実際の場面で実動できない。
⇒普段の生活の中で起こる内容を、無理のない方法で実施してみよう!
- ・ 広報車・FM・有線・いろんな手段あるけど、周囲が大騒ぎしすぎて認知症のご本人が怖がって隠れていた事例を経験したことがあるよ
⇒もう少し検討が必要だね

「お父さんがいないの!」
長男長女登場

町内会長・班長・家族が探索方法を協議中

事前打ち合わせ

発見

報道機関

ヒアリング
FAXや回覧板の反応を把握

反省会

介護者「自分も役割をしたい」と探索へ(3回目から参加)

町内会長・班長・探索役が探索エリアを協議中

10

1年目(25年度)SOS探索訓練後反省会

- 訓練は大字毎に**全町で実施**する
- 探索手順の検証と認知症の啓発を合わせた訓練を実施する
- アクションミーティングを継続し、関係機関と町独自ネットワークを検討する
- 探索手順(マニュアル)も合わせて作成する
- 今回の訓練結果を広報等で周知し、訓練を希望する町内や地域を募る
- 今回のミーティングに関わった人に、訓練の様子や話し合いの内容を配布し**継続参加**をお願いする
- 保健師は行方不明の恐れがあって対応されていない人がいないか、ケアマネやサービス事業所と見直しをする
⇒見守りマップを作成する
- 今、行方不明になる恐れのある人の**探索エリアをケアプラン**に加える

行きそうな場所

2年目(26年度)認知症SOS探索訓練アクションミーティング

- 介護保険の申請をしていない人やケアマネがついていない人は情報が少ない。一人暮らし行方不明は気づきにくい
- 介護サービスを使っていない人や警察のSOSシステムを知らない人が多い。**住民を巻き込んで**周知に重きを置いた訓練がしたい
- 今回の地区は山や川が近く危険な場所も多い。ハザードマップのイメージで危険箇所チェックもしたい
- (散歩なのなのか、本人が迷って歩いているのか、わからない)声をかけるのが難しいよね
- 訓練を知らない人のいるところを行方不明役が回って、地域の人がどう反応するか知りたい

どうする？

- 事例の設定は転入者等情報の少ない人にしよう
- 警察のSOSシステムの活用方法、訓練の目的、認知症や相談窓口などを知らせるチラシを配布する**周知班**を作ろう
- 探索班は町内の人とペアで危険箇所チェックをしながら探索しよう
- 周知班、探索班は警察のSOSシステム登録事業所に立ち寄り対応状況を把握しよう
- 地域の見守り拠点を探そう
薬局、理美容院、コンビニ、酒屋、その他日中人の出入りがあるところに行ってみよう

新潟県 湯沢町

2年目(26年度)SOS探索訓練反省会

- もっと住民に参加してほしい 知ってほしい
- 若年層、青年層の関心協力を得られると良い
- 地区の人の暮らし方がわかる人、地域の協力者が増えると良い
- 訓練を知らなかった人も直接話すと前向きに協力すると言ってくれた、介護や認知症のことについて説明を求められた
- やみくもな探索ではなく行きそうなところを考えて行動することが大事。日常の行動を把握することが探索のヒントになる
- 訓練の周知(町内回覧、広報)をしていたにもかかわらず、訓練自体を知らない人、日付を間違っている人がいた。関心を持って見ていない。
- 地域の人が真剣に話を聞いてくれた 他人事ではないと言っていた
- 地域の人々の生活はその地域の人が良く知っている(情報を持っている)

SOS探索訓練1年目の効果(行動とネットワーク状況)

参加数107人

【ボランティア協議会】

自身の住む町内の会合で訓練時のチラシを配布し周知

【議員】

行方不明事例発生!(2月!)

介護者へ助言

↓

介護者が行政と警察へ連絡(SOSFAXネット申し込み)

↓

隣市で無事発見

町内会長
民生委員
介護者
ボランティア協議会
議員
タクシー会社(認知症ヒアリング)

サービス事業所
社協
小規模多機能
特養併設通所介護

警察

医療機関

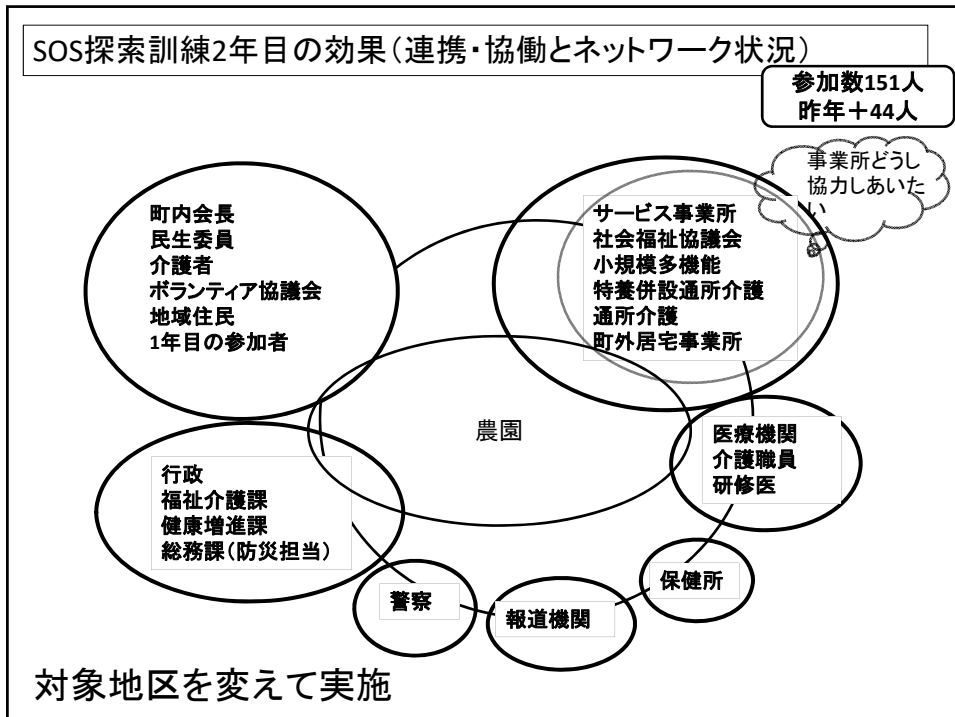
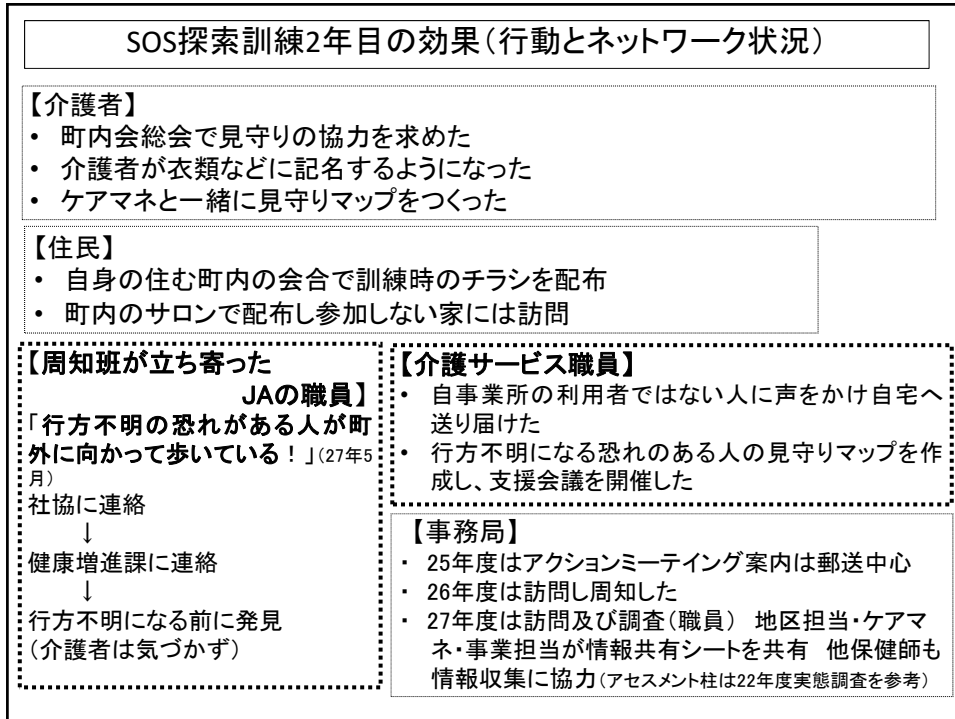
行政
福祉介護班
総務課(防災担当)

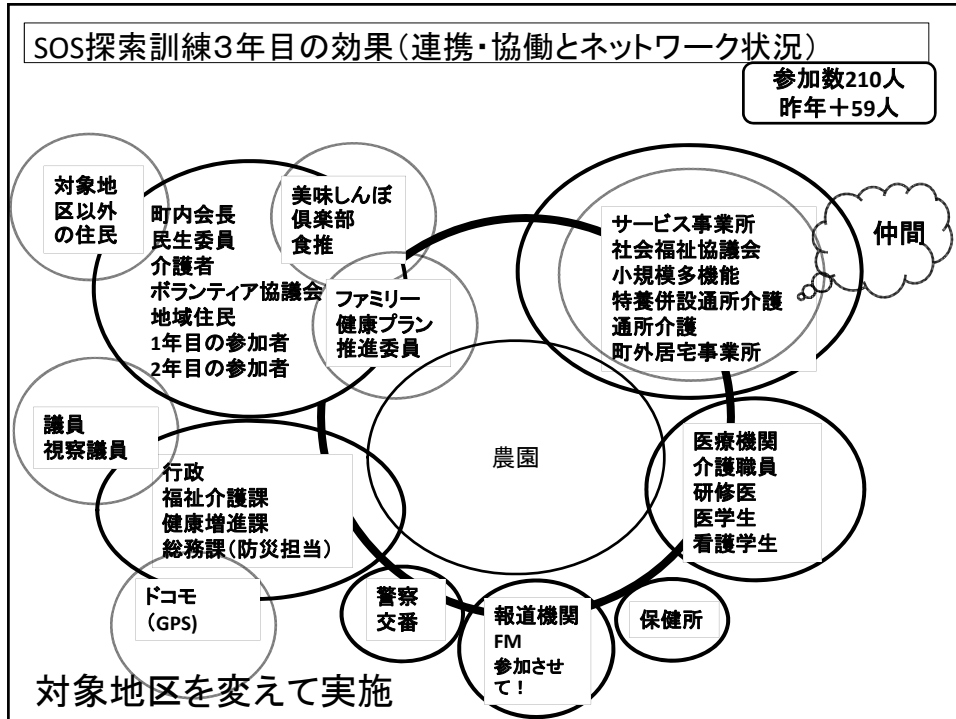
保健所

報道機関
新聞 TV

【健康福祉課】

訓練の経験を活かした行動が実施できた





- 今後の課題
- 参加数(25年度)107人⇒(26年度)151人⇒(27年度)210人
- より効果的な周知方法の検討と参加者の増加を図る
 - 事前周知(町内回覧や町広報)を知らなかった人がいる
 - 町内会長で回覧板は回すが活動に参加しない人がいる
 - 毎年、訓練に参加している人もいるが、参加者が新たな人を誘っていない
 - 認知症の理解と適切な対応・支援方法の理解を広める
 - 認知症の人が行方不明になった時の相談窓口や支援内容が、町全域にはまだ理解されていない
(警察が自宅に送り届けている人が数名いるが相談はない)
 - 介護サービス事業所に行方不明時の対策や取り組みの実施を理解していない人がいる
 - 参加者自身の主体的行動化の促進

各町内の組織的な取組へと波及を促すための方策

 - 「自分の町内の取り組みにしたい」という人、見守ってくれる人がいる。
地域が自ら実践できるようになることが最終目標・参加者アンケートより

2年目(26年度)訓練



探索 徒歩班



訓練終了後すぐに
参加者全員で反省会





アクション農園の団長と交代します (普段は、マンション管理の仕事)

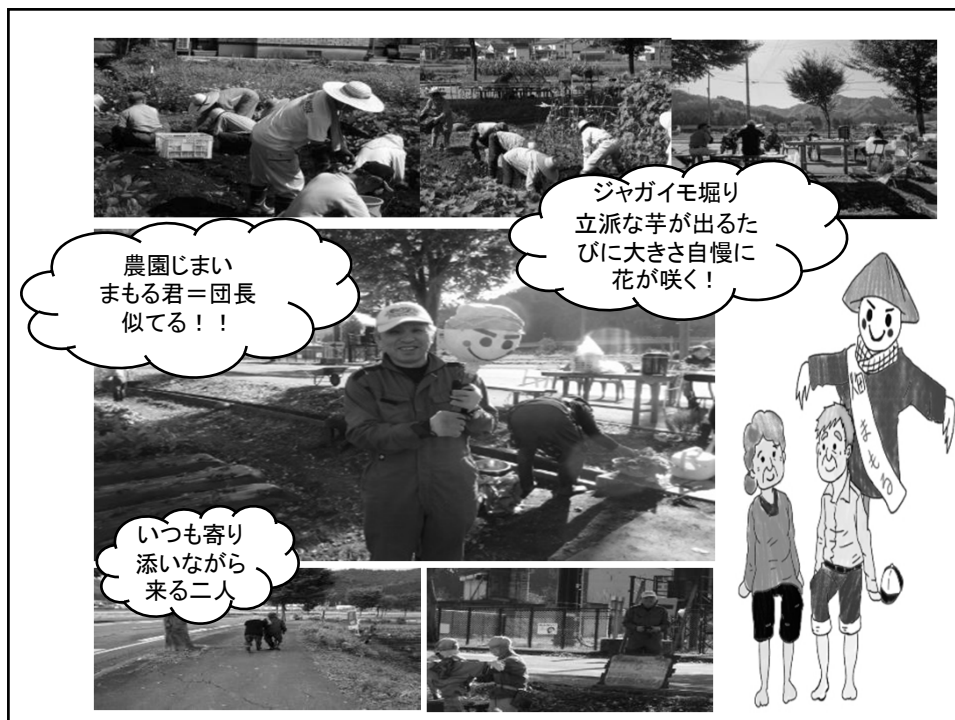


新潟県 湯沢町

湯沢町 認知症地域支援アクションミーティング

日 時	場 所
平成24年3月21日(水)	湯沢町公民館
アクション名	
アクション農園倶楽部	
※ 苗を植え作物を大きくするところにかけて、小さなコミュニティから大きなコミュニティになってほしいと願って付けた名前	
アクションの内容(やってみたい事)	
◎ 朝市や無人販売所で収穫の喜びを感じてもらう	
◎ 町内に回覧板を回し部員、顧問、農地を貸してくれる人を募集する	
◎ 畑に目立つ看板をたてる	
◎ 自分達が育てたい苗を持ち寄る	
◎ 曜日は決めるが、誰がいつ来てもいい	
◎ 畑に椅子やテーブルを置き、昼食をとったり、お茶をしたりする	
◎ ダッシュ村のようなシステムを目指す	
アクションの目的(アクションを通じて、目指したいこと・生み出したいこと)	
◎ 閉じこもりの人や老若男女が外に出て陽にあたり汗をかき元気になり、笑顔になる	
◎ 地域の人やマンションの人、誰もが区別なく話ができる	
アクションのつながり(こんな人、こんな立場・分野の人といっしょにやってみたい)	
◎ 農地を貸してくれる人	
◎ 広い意味でお世話をしてくれる人	
◎ 町長	
グループメンバーからのメッセージ(仲間づくりに向けて:一言メッセージ)	
◎ 外に出て、陽のひかりを浴びて汗をかきましょう	





人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【認知症の人・家族の変化】

1人暮らし認知症のおばあさん

農園には継続して参加している。

(「頭が痛い！」外出を拒むことがなくなっている)

「わたしは農家の出だからね～トマトの支えは私ができるから棒と紐を用意しておいてね！」

と、病院で合った担当ケアマネに話していた。

畑の物品を用意して迎えを待つようになった。



「みんなですればすぐだからあと2畝草取りしようよ！」

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【認知症の人・家族の変化】

高齢者2人暮らし、夫が認知症



さっきまで「行かない」って言ってたのに、本人が畑の道具を用意して待っているから迎えに来てください。父ちゃんが畑の事業に行くようになって、いろんな人にわかってもらえる。今は運転免許をどうしようか困ってるんだけど・・・(妻)

介護予防事業に来たときは不安そうな表情で、何をしていたかわからない様子なのに、畑に来ると、車を降りるとすぐ鎌で草を取り始めている。とつてもきれいに草取りしている。「草取りは嫌いだ」と言いながらも継続して畑に来てくれている。膝の悪い認知症の人を気遣ったり、ミミズに大騒ぎの職員を手伝ってくれたり・・・

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【住民の変化】

・行政主導の企画は住民の主体的行動化につながらなかったが、アクションミーティングで企画したプランはアクションメンバーが主体的に実施するようになっている。

♥自分のネットワークで、アクションに必要な物や人、情報発信の手段等準備、アクション開始後も様々な活動をしている

【看板、温泉に掲示、観光協会にチラシ、ブログ、FM、マグネット、中学校、モグラ】



メンバーや参加者自身の人とのつながりがアクションに参加する人どうしのつながりに広がり、今まで関係することのなかった人たちとのつながりが生まれ、そのつながりも顔を知っている、その場のみのつながりではなく、継続的に一緒に行動するお互いを理解しあえるつながりになっている。

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【住民の変化】

* 参照 湯沢町の希望の地図

- ・ 自転車でいつも通りがかかるひと・・・興味あるみたい
- ・ 車で通りがかかる人が減速して見ている・・・関心を持ってくれたのかな
- ・ 広報を見た住民から町やメンバー、広報に載った知人に問い合わせがあった(場所・いつ行けばいいの)
- ・ 「畑は興味があるけどしたことない、自分にもできることある？」とアクションの現場(農園)に来てくれる人
- ・ 「病院に行く日だけど、ちょっとだけ来てみた！」と農業指導に来てくれた人
- ・ 何度も同じ話をする認知症の人の話を聴いていてくれる。膝の悪い人の気遣いをしている。



人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【サービス事業所の変化】

- ・ 今までは町が町内事業所を対象に研修しても、その場限りで所内研修につながる事がなかった。認知症事業の一連で不適切ケア(虐待)に関する研修を全事業所一緒に実施した後は、所内でも研修内容を継続した取り組みをしていることが確認された。
- ・ ヘルパーが支援している認知症の人が、ヘルパーの誘導が無くても畑の用意(鎌・手袋)をしていたり、話題も増え、だんだん元気になっていく様子にヘルパー自身が嬉しそうに報告してくれるようになった。ヘルパーが畑まで一緒に歩いて送ってくれ、畑の作物にも関心を持ってご本人と話をしてくれている。



人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【サービス事業所の変化】

- ・関係機関への協力依頼する際は文書が必要だったが、アクションを一緒に企画することで、関係機関の長やアクションプランに関与していない職員も参加。職員は自分だけでなく家族を連れてアクションに参加してくれている。



- ・アクション農園の休憩時間の会話

(農園に来ている一人暮らしの認知症Aさんについて)

住民:「2時間ぐらい畑に来て、そのあとデイサービスに行って入浴したり他の人と一緒に過ごせたらいいのにな。ちょうどよかった! デイの職員さんがいる! どう思う?」

デイの職員:「11時までに来てくれれば可能かも」

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【サービス事業所の変化】

- ・認知症疾患医療センターへケアマネが相談するようになった。
- ・町立病院の外来に他の医療機関である“認知症疾患医療センターだより”が、継続して配置されるようになった。
- ・認知症疾患医療センターから、相談者の経過や包括等の立場で相談者支援の依頼・連絡が入るようになった。
- ・町内事業所職員と包括支援センター、認知症疾患医療センター医師・相談員が、認知症疾患医療センターにつながった相談者や、支援に悩んでいるケースの事例検討を実施することができた。事例検討をしたことでサービス事業所職員が自身の対応を振り返り、事業所として検討するきっかけになった。

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【班内・役場職員の変化】

- ・ 広報に認知症事業が大きく取り上げられるようになった。
- ・ アクションメンバーが、アクションプランに町長の協力を入れたことで、町長がミーティングに参加、アクション農園開園式にも参加。
- ・ 町長が広報のコラムに記載してくれたことで、議員さんが取り組みを見に来るようになった。
- ・ 出勤途中に、畑の作物の成長を写真に撮って来てくれる課の職員がいる。
- ・ 休日に草刈りをしてくれる他課の職員



人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【班内・役場職員の変化】

- ・ 本庁の職員から「ちょっと心配な人がいる」、と健康福祉課に連絡が入るようになった。
- ・ 班内職員が、担当外の業務でも参加協力するようになった。アクションの現場に行くことはできなくても、できることを見つけて協力してくれている。関心を持って経過を見守ってくれるようになった。
- ・ 平成24年度も認知症事業を継続するにあたり、班内職員が担当業務と関連する内容の事業を希望し、複数で相談しながら取り組むようになった。

人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【町外の人の変化】

- ・県の担当者(地域機関・本庁)がアクションに参加してくれた。ブログを見て、取り組みの経過を周囲の職員に伝えてくれている。
- ・ブログを見た人が、畑のかかしに“農園まもる”と名前を付けてくれた。

農園まもるです



人(職場内・職場外・関係機関・住民)をつなぐこと、
既存の事業をつなぐことを意識して取り組んだ結果

【担当者として感じたこと】

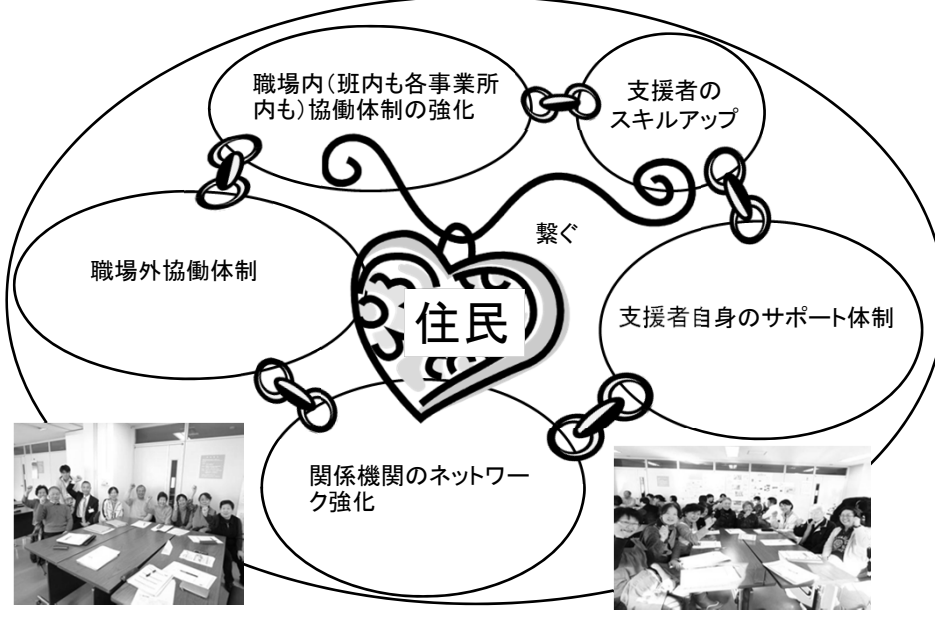
- ・人のネットワークはすごい、いろんな人がつながると予算がほどほどでも目指したいことに近づける。
- ・人がつながり一緒に取り組むことで、認知症の人も家族も地域の人もサービス事業所の職員も私たちが元気になってくる。
- ・認知症を感じさせない、それぞれの人の力ってすごい。
- ・一緒にアクションしている人、支援している人が元気になってくるのがうれしい。仕事のやりがいにもつながってくる。
- ・様々な事業を単独でするより、人や内容をつなげてすると、
知識 ⇒ 態度 ⇒ 行動化になる。



世代・背景(立場・職種等)関係なく様々な人がつながると期待した以上のパワーになる。

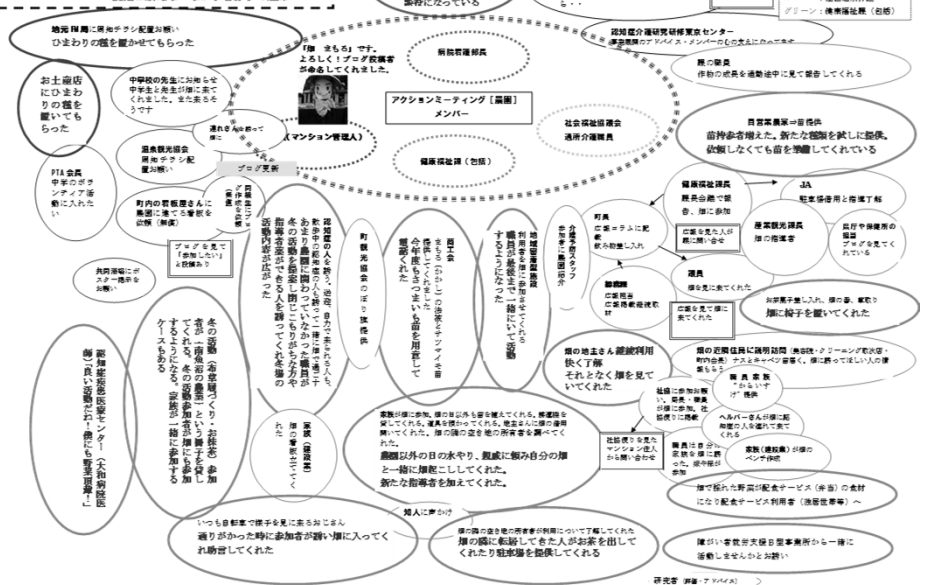
新潟県 湯沢町

認知症の人も家族も地域の人もサービススタッフも医療スタッフも行政もみんなで知恵を出し合い、できることをしあい、住み慣れた湯沢町で安心して自分らしく活き活きと暮らし続けられたらいいな……



湯沢町の希望の地図 農園二年目

認知症施策(アクション農園)人のつながり
25年6月1日現在
*変化と新たなつながりを赤字で追加





子供から年長者まで、安心なわが町を自分たちが創りつづける
認知症でも安心して外出できるまちづくり
～当事者に学び、共に築く～

大牟田市認知症ライフサポート研究会 大谷るみ子
(認知症コーディネーター、認知症地域支援推進員)
大牟田市保健福祉部 長寿社会推進課 吉澤 恵美
福岡県保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課
田島 浩俊

地元の専門職と行政職員が仲間になり「真剣な議論」と活動を継続

大牟田市認知症ケア研究会(平成13年11月～)

認知症の人とともに暮らす町づくりの原点は・・・

大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として認知症ケア研究会が発足。
出発点は、「いつでも、どこにいても、誰といても自分らしく、幸福に暮して欲しいという願い」
だった。 だから、自分の施設だけ良くてもだめ！

- ・構成メンバー：市内の介護事業所に勤務する職員(専門職)9名の運営委員からスタート、
コアメンバー・運営委員24名、会員約200名
・事務局 :大牟田市 保健福祉部 長寿社会推進課

行政と介護サービス事業所の協働

H14年度より地域認知症ケアコミュニティ推進事業へ

地域全体で認知症の理解が深まり、認知症になっても、
誰もが安心して暮らせるまちづくり

認知症でも安心して外出できるまち
住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたい

大牟田市における認知症の取組みの3つの柱

当事者・家族・地域住民の視点、力や役割の重視、協働

- ・ 全世帯及び高齢者、家族、介護職員の大規模な実態調査
- ・ 多様・多世代の住民・事業者の理解・参画の推進
- ・ はやめ南人情ネットワークから広がった地域住民との協働
- ・ 若年性認知症・当事者の会(ぼやき・つぶやき・元気になる会)、家族の集い・語らう会
- ・ 小中学校の絵本教室、小中学校の徘徊模擬訓練への参加

ミッションを共有した核となる人材・チームの育成・地域への配置

- ・ 認知症コーディネーター養成研修、もの忘れ相談医の育成
- ・ 地域密着型サービスに認知症コーディネーター研修修了者を配置(独自基準)
- ・ 急性期病院看護職に受講推奨、地域包括支援センターには完全配置
- ・ 地域包括支援センターを要としたもの忘れ相談検診、認知症予防教室
- ・ 地域認知症サポートチーム(専門医+サポート医+コーディネーター+連携担当者)

地域とともにある拠点づくりと活きたネットワークづくり

- ・ 小学校区を基盤とした地域密着型サービスの整備、介護予防・地域交流拠点整備、拠点を中心とした実効力のあるネットワークづくり:継続的な認知症SOSネットワーク模擬訓練を通してつづけてきた大牟田市ほっと安心ネットワーク、模擬訓練をきっかけにした校区活動の広がり
- ・ 小中学校絵本教室を通して多世代交流と地域活動への参画
- ・ 地域密着型サービスを地域拠点とし、本人・家族を支援できる認知症カフェやミニデイ等の試み

若年認知症本人交流会 ぼやき・つぶやき・元気になる会のねらい

- ・ 同じような思いを持っている本人同士の出会いの場
- ・ 本人同士が日頃の思いや願いを語らう場
- ・ 一人で悩んでいる人が、仲間とつながり、
一歩を踏み出す場
- ・ 「私たち」をサポートしてくれている家族同士
が出会い、語らう場

本人と家族の素朴な願いを聴きながら、いっしょに動く、汗を流す

本人や家族と一つのチームになって三池山登山！
険しい山道だけど、みんなで汗と涙と喜びを分かち合った！



若年認知症フレンドシップキャンペーン2013

ほっと・安心見守りネットワーク

1. 認知症の人と家族を支え、見守る地域の意識を高め認知症の理解を促進していく
2. 認知症の人を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、行方不明時にはいち早く保護していく実効性の高いしくみの充実
3. 認知症になっても安心して暮らせるために「認知症でも、安心して外出や散歩、生活し続けることができる町」を目指していく

大牟田市ほっと・安心ネットワーク 認知症SOSネットワーク模擬訓練



認知症でも
安心して外出できる
まちへ



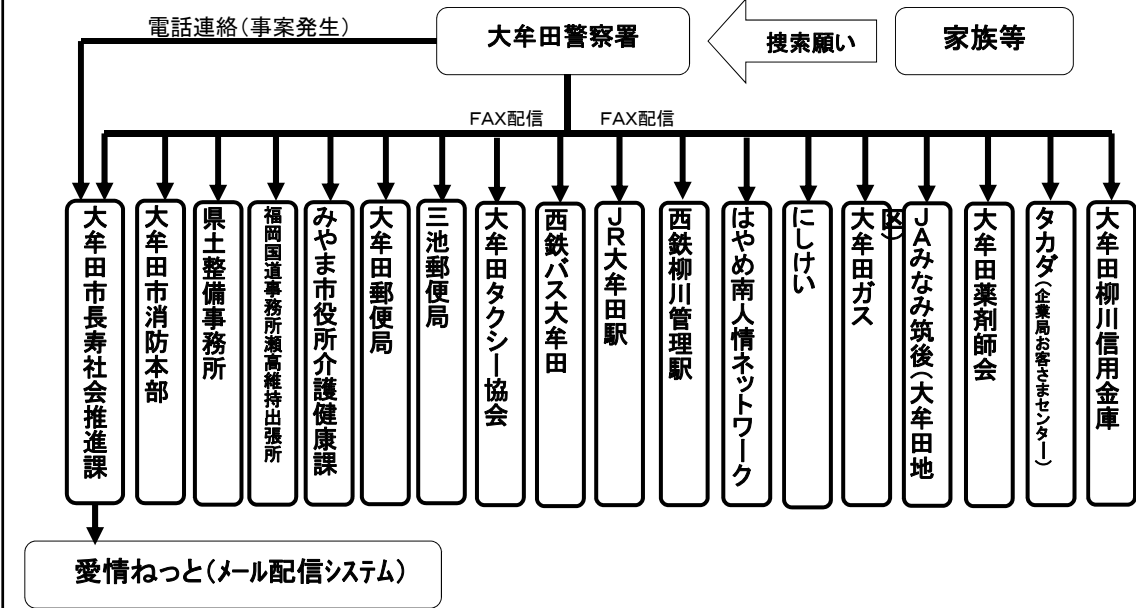
はやめ南人情ネットワークから
全校区へ

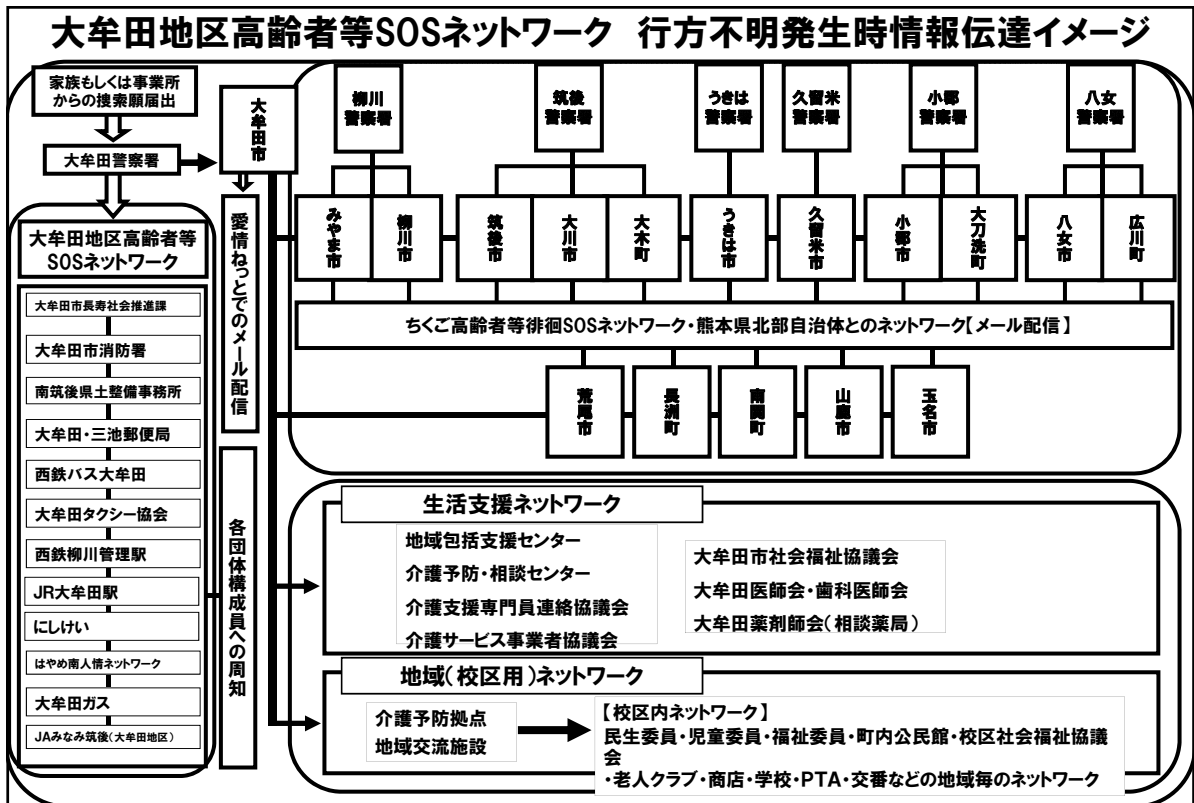
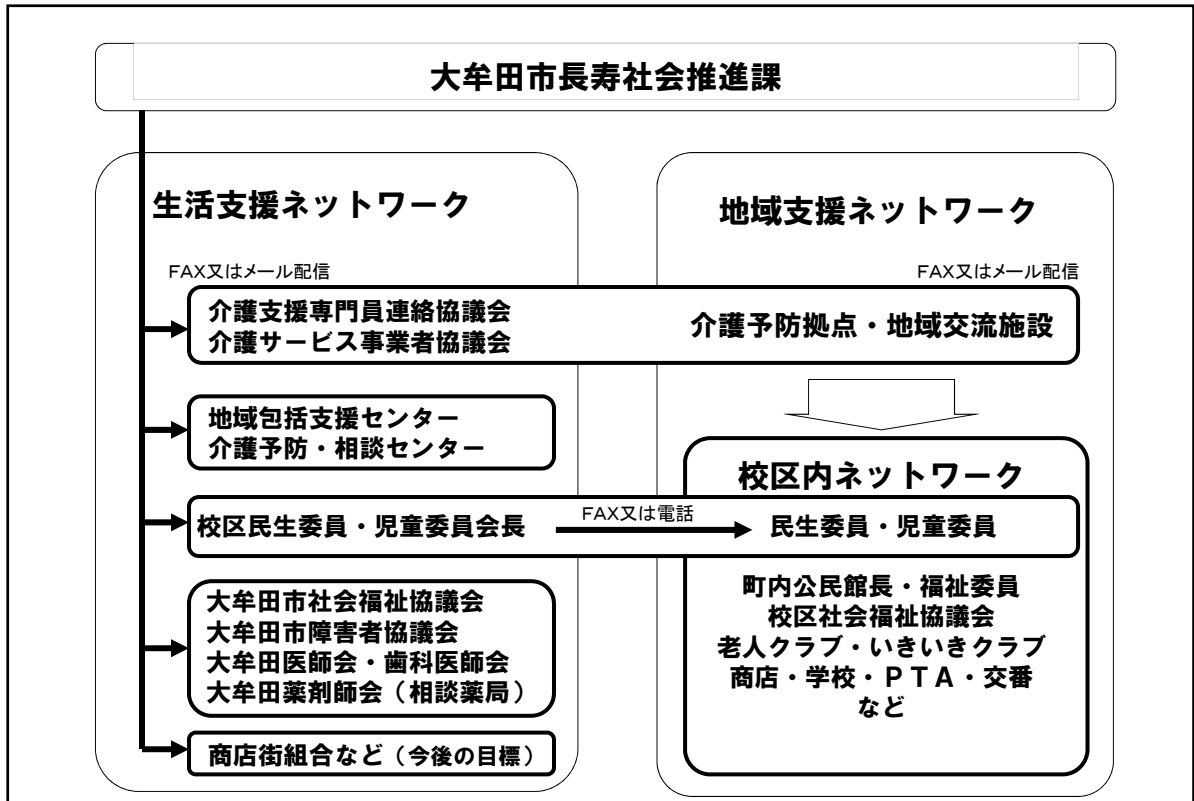


大牟田から全国へ



大牟田地区高齢者等SOSネットワーク





訓練実施結果

目標1：認知症の人の人権を守り、地域で見守り・支える意識醸成
 （認知症の理解を深め、当事者の気持ちに配慮した
 声かけや見守りができるように）

1 認知症サポーター養成講座開催校区数	21校区
2 認知症サポーター養成講座開催回数	43回
2 認知症サポーター養成講座受講者数	1,322名
3 模擬訓練及び認知症啓発チラシ配布枚数	28,306枚



“徘徊”という言葉を使わないと決めた！
 その意味をみんなで確かめ合おう！



訓練実施結果

目標2：いざという時の実効性の高いSOSネットワークの構築
 （行方不明になられた場合、できるだけ早く安全に保護するために）



1 訓練参加校区	21校区
2 訓練参加者	3,127名
3 情報伝達の協力者	1,110名
4 搜索活動の協力者	1,908名
5 声かけ人数	1,627名
6 情報伝達所要時間（平均）	30分

3年間の推移

	25年度	26年度	27年度
訓練参加者合計 (人)	2,019	3,083	3,127
外出役数 (人)	69	107	95
外出役への声かけ (人)	953	1,506	1,627
模擬訓練参加校区数	21	21	※21
サポーター養成講座開催数	40	38	43
受講者数(人)	999	1,102	1,322
他都市からの視察 (人)	138	177	173

※1校区は別日程(9/27)開催

大牟田地区高齢者等SOSネットワーク利用件数 (サンプル)

	H22	H23	H24	H25	H26
行方不明届出数	143	106	123	156	97
(うち認知症)	16	24	24	24	22
SOSネットワーク 利用数(※)	16	20	24	23	14
認知症等高齢者 保護数	112	121	169	138	141

※大牟田市内における認知症高齢者の利用数に限る。障害者や小中学生、広域ネットワーク関係分は含まない。

5つのスローガン

1. わがまち、わが校区を安心して生活できる町にしよう！
2. まちがって声かけても、笑い合える町がいい！
3. 認知症、知っててあたりまえのまちをつくろう！
4. 日頃から声かけ合える地域力を高めよう！
5. 実効力の高いネットワークに育てよう！

これまでの小中学校での絵本教室の子供たちや地域ふれあいフォーラムでの参加者の声より

今後の課題～4つの観点から

当事者視点の重視

「徘徊」=社会的排除にならない社会の醸成

個々の安全確保のためのケアマネジメント

医療・介護のプロ、生活関連企業の協働

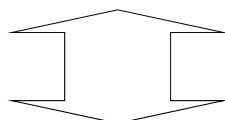
当事者参加

- 市内統一型「外出役」のサポーターとして参加しました。
- 外出役のそばを、少し離れて、一緒に歩きました。
- 声をかけてくださった方々に、私から「私は当事者です。声をかけて頂きありがとうございました」とお礼を述べました。



声をかけられた市民からの声

- 当事者の方が参加していることに驚いた。
- 心からの「ありがとう」が胸に響いた。
- 感動しました！



ご本人の喜びとやりがいにつながった！
社会参加の機会が増えた。

日本認知症ワーキンググループの発足 ～当事者の声の重視～

「認知症になってからも、一人の「人」として
尊厳と希望をもって生きていきたい」

ノーマリゼーションの社会をつくる

認知症700万人の時代、認知症でない人も、
認知症の人も、同じ一人の「人」として尊重され、
社会で当たり前生きていける

「徘徊」という言葉を使わない

福岡県内

今年から見直す
見守り声かけ訓練
認知症声かけ訓練等

- 太宰府市
- 嘉麻市、田川市
- 福岡市早良区大原校区
- 柳川市

来年から見直す

- 筑紫野市
- 直方市

最初から使用していない

- 北九州市の守恒地区他
- 「迷い人」搜索訓練としている地域もあり

表 認知症高齢者の行方不明届けの受理人数*
(警察庁調べ)

	2012年	2013年	2014年
受理人数*	9,607人	10,322人	10,783人 (100.0%)
死亡発見	359人	388人	429人 (4.0%)
所在不明	208人	158人	168人 (1.8%)
2014年:福岡県 396人(うち13人死亡、未発見2人)			

* 受理人数:警察に届け出て、受理された人数

福岡県内ネットワーク構築状況 : 34市町村

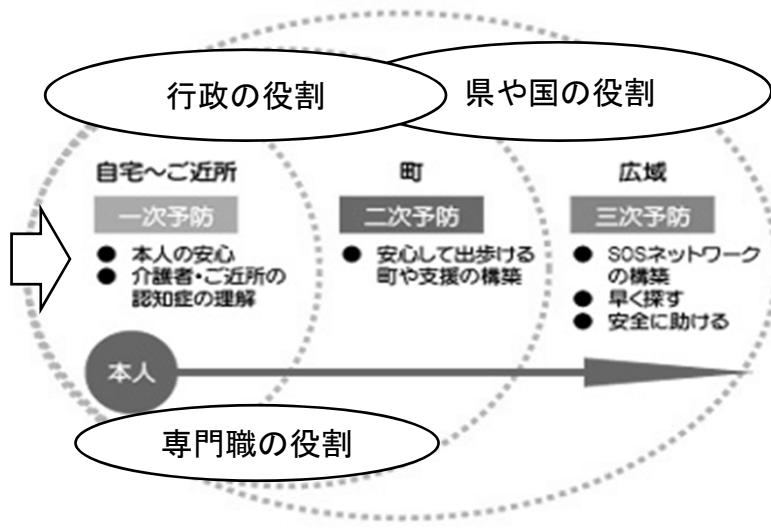


どんなセーフティーネットワークがあってもゼロにすることは難しい!
しかしゼロに限りなく近づける努力はできる!

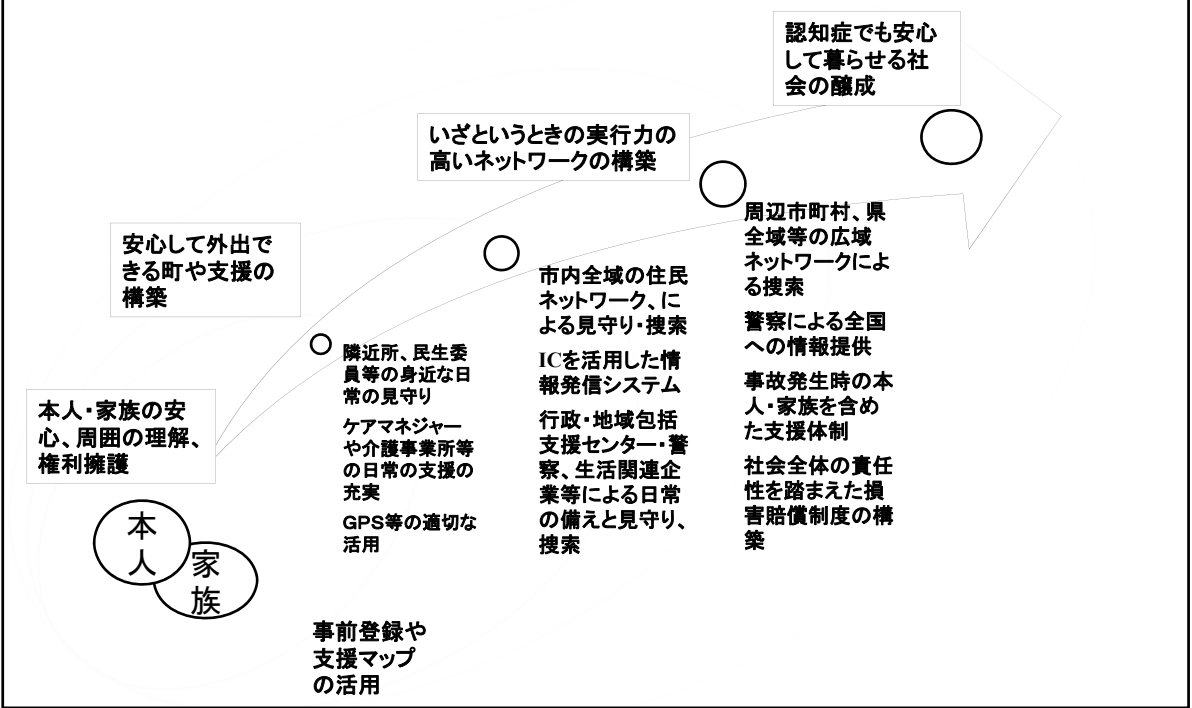
個々の安全確保のための支援

行方不明の危険のある高齢者の支援 ～予防体制の構築～

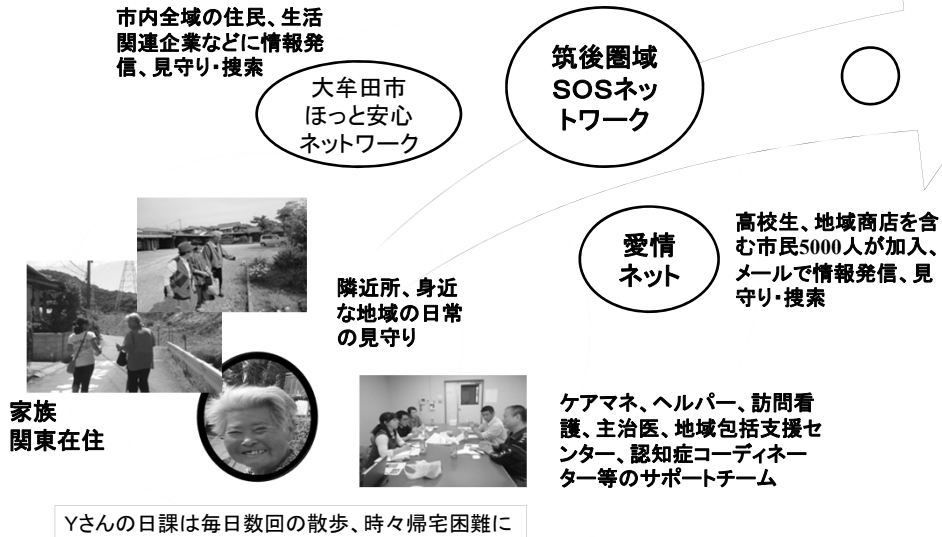
- 専門職として日常生活上のリスクを把握
- ご本人の意向、希望を重視
- 家族や周囲への認知症の理解啓発
- 関係者間での情報共有
- 必要に応じてGPSや見守り機器の使用
- いざという時の見守りマップ、周囲への周知を図っておく



安心して外出できるまちのしくみ



Yさんを支える地域のネットワーク



認知症でも、安心して外出ができるまちへ

- 世代を超えた地域住民の認知症の理解が広まり、見守りのネットワークができている
- 行政が明確なビジョンを持ち続け、アクションプランとして実践している
- 核となる人材が育成され、地域の拠点に配置されている
- 医療と介護が連携し、早期診断、早期支援、予防のしくみができている
- 当事者に学び、当事者と共に築くまちづくりが実践されている

「あたりまえ」になるように、一緒に創りつづけよう。

行方不明を防ぎ認知症になっても安心して暮らせるまちづくり
全国フォーラム 配布資料

認知症の人の行方不明を防ぎ安心して外出できるまちづくり推進事業
(全国生協連助成事業)

平成27年12月18日(金)

有楽町朝日ホール

主催：社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
